

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

第一冊
自卷一
至卷三

24034

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄號	第	號
社會科學部		
法律法學部		
總記	款	最書項
B9	日	次
全7冊	冊ノ内第	1冊
分類號	第	號
320.8		

福岡第一師範學校

書門

部

番

號

冊ノ内

T1A1

23

Ka11ba

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 2 4 8 4 a

福岡教育大学蔵書

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

明治九年
一月刻成

何氏藏版

萬法精理序



禮之何兄之書與余
在歐洲也屢語余曰
歐洲諸國之學術工
藝非印一端而可盡

也而近时课而书者
日增月多而各科之
译本多门又安能
以篇单牘首尾不
串之足以见其全彪

可也歎惜焉耳吾
辈学子课业宁全
一科期于周备耶
可矣余深是之矣以
何兄以名暇译佛

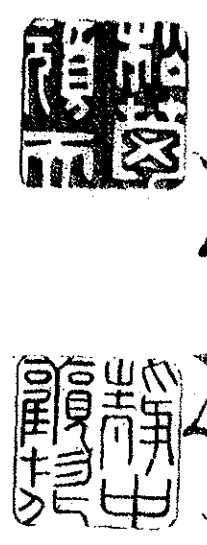
王孟德彭越氏萬法
精理欲以公之世而請
序於余余聞其德
彭越氏者通儒之碩
學而尤精于法律也

東法蘭西國之書而舉
治績者蓋不少矣
也何兄之澤以書
首尾串全果不食
前言也學名苟就此

蓋而求法理之所用
焉之所以與元氣
相流注之所以與邦
風俗相變遷其所以
與人事相為表裏

動息者蓋於是中
有幹有條是以若居
體之本末矣如何兄
此舉不獨為課業
之責其亦足以助國

家之活續也歟
 明治二十一年七月
 初菊本居元撰并書



辱知生何 禮之 謹テ書

水戸參議公閣下ニ呈ス伏テ惟ルニ往年我全權大使ノ
 歐米各國ヲ歷聘スルヤ驛ヲ華盛頓府ニ駐シ事數
 月此際ニ方リ閣下適マ法律學士サミユール、テイロ
 ル氏ノ著名ナルヲ聞キ禮之ヲ具シテ面晤シ泰西法
 律ノ大要ヲ質問ステイロル氏曰ク今日歐米各國ノ
 治化休明ハ數百年ノ培養ヲ經テ成長セル者ニテ一
 朝ノ造為ニ出ルニアラス其之ヲ誘掖セシ根柢ハ先
 哲ノ著作アリ著作固ヨリ其人ニ乏シカラスト雖モ
 就中道理事蹟ニ兼通シテ典型模範ト為ス可キ者ハ
 孟德斯鳩ヲ以テ古今第一トス間ク貴國法ヲ各國ニ

採リテ勵精治ヲ圖ルト果シ然ラハ宜ク孟氏ノ法論
ヲ玩味シ其蘊奧ヲ究ノ世道人心ノ苟モ改換ス可ラ
サル事ヲ了解セハ經世濟民ノ為メ大ニ裨益スル處
アラント閣下其言ヲ聽トスルニ因リ禮之府下ノ書
肆ヲ搜索シテ此原本ヲ購得シ行李ト俱ニ攜帶シテ
朝夕手卷ヲ釋カス歸朝ノ後公暇ヲ以テ之ヲ重譯シ
閣下ノ電覽ニ供セント欲セシ一會病ニ罹リテ其志
ヲ果サス客歲ニ至リ初テ稿ヲ起シ既ニ前編ノ大半
ヲ卒業ス抑モ此書ノ成ルヤ閣下ニ淵源ス故ニ今之
ヲ閣下ニ進呈シテ公明ノ鑒識ヲ仰サルヲ得ス翻譯
行文ノ拙劣ハ固ヨリ言ヲ待スト雖モ其立論ノ簡要

實ニテイロル氏所說ノ如シ若シ能ク庶堂樞機ノ餘
覽觀ヲ賜ヒ謨猷ノ一助ト爲ラバ禮之微勞ノ畫餅ト
爲ラサル而已ナラス國家ノ為メ涓埃ノ鄙哀ヲ表ス
ルニ足レリ希クハ閣下諒察ヲ加ヘラレントヲ尊嚴
ヲ冒瀆シ惶懼ノ至ニ堪ヘス

明治八年五月

何 禮之頓首再拜

凡例

○此書ハ「デ井」スビリツト、オフ、ラウ、スト題ス因テ萬法
精理ト譯ス原書ハ即佛書ヲ英文ニ翻譯シタルモノ
ニテ嚮ニ重譯シテ世ニ公ニセシモノハ千七百六十
八年ノ古本ニ係リレカ頃口千八百七十三年ノ新刊
ヲ得タリ固ヨリ原文ニ於テハ意義ヲ大異同之ナレ
ト雖モ語勢字句ノ間新古晦明ノ別アリテ更ニ明瞭
ナルヲ覺ユ故ニ之ヲ校正シ再刊スルナリ

○原書ノ著撰今ヲ距ル一百餘年前ニ在リ加フルニ汎
ク古今ノ法制ヲ網羅シテ之ヲ概論スルモノナルカ
故ニ其言簡要其意深微ナリ能ク沉潜反覆シテ之ヲ

玩味スルニ非レハ其意ノ所在ヲ解レ難シトス是ヲ以テ專ラ直譯ヲ下レ毫モ臆斷脩飾ヲ交ヘス然レモ行文單簡ニ過キテ明瞭ヲ欠ク處徃々之アリ直譯ノ以テ其意ヲ盡ス能ハサル處ハ註脚ヲ下レテ本文ノ餘義ヲ演說ス蓋レ己ハヲ得サルニ出ルナリ看官意ヲ用ヒテ熟讀セハ自ラ其要領ヲ探リ得ン

○此書ヲ發行スルニ方リ僚友鈴木氏律例精義ノ譯述亦世ニ出テタリ其原本ハ英佛ノ差アリト雖モ固ヨリ同書タルヲ免レス故ニ協議ノ上予ハ第二十卷ニ至ル迄鈴木氏ハ第二十一卷ヨリ譯述ニ着手スルニ決セリ是レニハ重複ノ勞ヲ省キニハ斯ノ如キ

浩瀚ノル全篇ノ速成ヲ望ハカ爲ノリ看官ニ書ヲ合觀ヤハ希クハ全帙ノ嚙肉ヲ得ン

○原註ハ夾註ト爲シ譯者ノ註解ハ必ス按字ヲ冠シテ之カ別ヲ爲ス

○編中ノ論說ニ引據スル處ノ諸家ハ他書ニ就テ各其小傳ヲ抄出シ之ヲ纂集シテ附録ト爲シ以テ看官ノ參考ニ供ス故ニ本編中一々之カ履歷ヲ記セス

○諸名稱ハ概ネ世間慣用ノ譯例ニ從フ若シ譯字ナキモノハ原意ニ依リテ新ニ熟語ヲ擇ミ之ヲ填シ或ハ原語ヲ存シテ其意ヲ演解ス其妥當ナラサルモノ、如キハ看官ノ是正ヲ待ツ

○地名人名等モ亦世間常用ノ符號ニ例フ乃一單柱ノ
右ニ在ルハ名氏、左ニ在ルモノハ一切ノ物名ニ雙柱
ノ右ニ在ルハ地名、左ニ在ルモノハ官職爵位ナリ

孟德斯鳩小傳

佛國ノ巴倫^{伯爵}孟德斯鳩諱ハ查理^{モントスキュー}塞根達一千六百八十九

年一月十八日ボルドー府ノ近郊デブレーデ城ニ生ル

此ノ時ヨリ才思凡ナラス神童ヲ以テ聞フ其父益教育ニ

力ヲ盡シ齡二十ニシテ民法ノ全書ニ涉獵シ其精要ヲ撮

収シテ以テ預ノ萬法精理著撰ノ材料ニ供セリ先生ノ法

律學ニ從事スルヤ其志ス處專ラ精理ヲ考究スルニ在リ

テ刀筆ノ末ニ汲々タラス故ニ此一科ニ埋没スルヲ以テ

屑シトセス千七百十四年ボルドー府集議院ノ參議ニ任

シ同十六年議長ニ選マル此年府學創立ノ舉アリ乃チ其

學士ノ職ヲ兼ヌ是ニ於テ彫蟲ノ末技ニ從事スル學風ヲ

一洗シテ物理ノ實學ヲ研究セシメタリ二十二年政府新ニ酒稅ヲ課シテ人民頗ル之ニ苦シム乃チ議院ノ委員トナリテ京師ニ赴キ其非ヲ辨シテ之ヲ諫阻シ竟ニ其稅ヲ廢セリ二十五年開院ノ演說ヲ為ス其論雄偉深遠ニシテ一世ノ詞宗タルヲ顯セリ明年議長ノ職ヲ辭ス蓋シ先生ノ此職ニ在ルヤ其學職智力ヲ罄スニ足ラス故ニ自ラ法官ノ職ニアルヨリ國家民人ノ爲メニ功益ノ大ナルハ寧ロ著撰ニ在ルヲ悟得シテ訣然其組ヲ解ケリ固ヨリ先生此著撰ノ以テ能ク立法ノ大術ヲ發明スルニ非スムハ決シテ辭職ヲ恕シ難シ

千七百二十八年大學士ノ員缺ク先生其候補員タリ是ヨ

リ先ト波斯寓言ノ著撰アリ其意波斯ニ托シテ當時ノ政教人心ヲ諷規ス文藻詞理固ヨリ翰林ノ選ニ愧チス然レ正書中ノ語鋒甚タ鋭ニ過キテ政府ノ忌諱ニ觸レ物議囂然タリ後其事漸ク氷解シテ先生遂ニ大學ニ入レリ

先生大學ニ入り始メテ天賦ノ才思ヲ逞クスルノ道ヲ得タリ故ニ日夜典籍ニ沉湎シテ他事ヲ顧ミス後チ更ニ其學職ヲ擴開センカ為メニ佛國ヲ去リテ知己ウハルドダレーフ伯英ノ使節ト為リテ維也納府ニ赴クニ全伴シ次テ匈牙利ヲ經テ伊太利ニ至リ端西ニ登リ萊庄河ヲ下リテ沿岸ノ諸邦ニ游歴シ以テ古今ノ治亂得失及當時ノ制度文物ヲ視察シ遂ニ海ニ航シテ英國ニ到リ國王人民ニ

優待セラレ交ヲ政事家及學士ニ結ヒテ此國ノ政体ヲ測量シ其機關ノ諸部ハ皮膚上得テ見ル可ラサル無數ノ利益ヲ集成セルヲ發明シテ大ニ其著撰ノ資ト為セリ
國ニ歸リテ直ニブレーデ城ニ退キ只机上ノ書ト窓前ノ草トニ對シテ茲ニ裘褐ヲ換フル二回千七百三十三年ニ至リ羅馬盛衰原目論ノ著述アリ此書ハ政事家理學家ノ必讀ス可キ史論ナリ續キテ英國政体論ニ及ント欲シダレヒ之ヲ萬法精理ノ中ニ挿入スルノ更ニ適切ナルニ若サルヲ思維シ終ニ千七百四十八年ニ至リテ萬法精理ノ大手筆世ニ出テ先生ノ令名ヲ不朽ニ傳ヘタリ此萬法精理ハ譬ヘハ人民ニ福利ヲ賜フ處ノ寺觀ニシテ先是、

羅馬盛衰原目論等ノ諸書ハ寺觀ニ登ルノ石級ノ如シ先生滿腔ノ丹髓ハ此書ニ凝聚セリ先生此書ノ腹稿ヲ起センハ早歲ニアリテ爾來之ニ刻苦セシ事二十年ニシテ終身ノ經營ト云フモ可ナリ着手ノ初ハ更ニ自國ノ情實ヲ審知ヒンカ為ノニ自ラ異邦ノ人ノ意想ト為リ續キテ歐羅巴ノ諸國ヲ經歷シテ其人民ノ氣風ノ異全ヲ觀察シ宇内ノ歴史ヲ通覽シテ各國ノ人民及著名ナル賢哲ノ古存シテ今亡キモノ、事蹟ヲ論斷シテ總ク萬國ノ制法者タル大名ヲ得ルニ至レリ

書中ニ援引シテ以テ議論ノ資トセシモノハ多西土斯普而多爾其ノ二家ヲ以テ居多ナリトス然レモ網羅盡サバ

ル處ヲク苟モ其用ニ供ス可キモノハ一モ之ヲ遺スル無
シ其明ヲ失ヒテ他人ノ視力ヲ借りシヲ見テ其誠博淹通
ノ非常ナリシヲ察ス可シ

萬法精理世ニ出テ未ダ幾ナラスシテ先生易簣ニ及ヘリ
然レモ生前ニ於テ此著撰ノ功德全國人心ヲ感化シテ漸
ク愛國ノ天性ヲ啟キ其真正ノ目的ノ所在ヲ知ラシメ農
商ノ業務及有用ノ技術ニ勤勵シ而テ政府ノ大綱ヲ指示
シテ益人民ヲシテ愛戴ノ情ヲ厚クセシメシヲ目撃シテ
其心意ヲ慰メタリ

先生功德ノ人類ニ深キハ猶ホ此著撰ノ規模ノ宏大ナル
ト運度ナシト謂フモ過辭ニアラス實ニ歐洲各國ニ於テ

賢明博學ノ士人ヨリ治國執政ノ君相ニ至ルマデ皆此書
ヲ以テ絶世ノ作ト看做サ、ルハ無シ仔細ニ之ヲ言ハハ
明德叡智ノ帝王ニシテ而モ治民將兵ノ術數ニ富メル者
ト雖モ政學ノ一科ニ於テハ之ヲ先生ニ學ビ得タリト謂
ハサルハ無シ○書中徹頭徹尾人類ヲ愛スルノ厚キ其福
利ニ注意スルノ切ナル及自主自由ノ真諦ヲ説キ去ル先
生ノ精神躍々トシテ紙上ニ活動ス夫ノ東洋諸邦ノ專制
ノ事ヲ名状スルニ至リテハ讀者ノ目一觸ルハ唯君主
ト奴隸トアル而已義務ヲ有スルモノトキ云フ其
政ノ慘痛ナル人ヲシテ戰慄セシムルニ足ル以テ暴政ノ
針砭ト為ス可シ又民主政治ニ於テ全權ノ理其度ヲ過キ

シニ依リテ專恣暴謾ニ陷ル可キ禍害ヲ救防スルノ規箴
モ亦以テ先生思慮ノ深遠ナルヲ窺フニ足ル可シ
先生大業既ニ成リ初メテ安閑ノ地ニ就テ當ニ享ク可キ
榮譽ヲ享ケシカ二月ノ初ヨリ卧蓐ニ就ケリ原來身体
健壯ナラサルニ焚膏繼晷ノ際病疴暗ニ膏肓ニ入リテ茲
ニ發シテ終ニ不起ノ症ト為レリ先生病苦ニ悩マサレ而
ノ眷族ノ膝下ニ侍養スルニ達ハスト雖モ天賦ノ才思ニ
仗リテ懿德ト人類トノ為メニ盡力セシ事ヲ覺知シ悠然
トシテ大人君子ノ令終ヲ遂ケタリ溘逝ノ時ハ實ニ一千七
百五十五年二月十日ニ在リ

チエストルヒールド伯英曰ク先生ノ懿德ハ人ノ性ニ名

譽ヲ與ハタリ先生ノ著撰ハ公義ノ理ニ名譽ヲ與ハタリ
先生ハ人類ノ愛顧者ト為リテ其權利自由ノ疑フ可ラス
讓ル可ラサルヲ論定シ佛國ノ政教ハ偏私アルヲ免レサ
ルヲ憂ヘテ之ヲ革正セン事ヲ勉メテ頗ル其効アリ英國
ノ政憲ヲ讚美シテ唯法律一定シテ知リ易キヲ以テ立君
ノ制ヲ約束シテ專制ニ呈ラシメス自由權ヲ約束シテ專
恣ノ弊ニ陷ラシメス國家ノ瑞相ナリト稱セシハ格言ト
謂フヘシ先生己ニ没スト雖モ先生ノ名ハ著撰ト俱ニ百
世ニ垂レテ公義ノ道正心修身ノ義務及法律ノ真理未タ
人間ニ絶エサル間ハ之ヲ會得シ之ヲ尊敬シ之ヲ維持ス
ルモノアルハ疑フ可クモアラス

先生風采瀟灑談論和暢ナリ故ニ旅々人ヲ教ヘ人ヲ悦ハ
シノ曾テ人ニ怒ラレシ事無シマウベルテユス曰ク宴會
講社ニ赴クニ方リテ先生モ其中ニ在ルヲ聞ク時ハ先生
ヲ見ルノ數々ナルヲ以テ殊ニ幸榮ナルヲ覺エタリ此意
予一人ニアラス他人モ亦先生ヲ景慕シテ常ニ其來臨ノ
遲キヲ怨ミ既ニ來レハ滿坐忽チ喜色ヲ生セリ
先生性質正直慈善ニシテ奢侈ヲ好マス殊ニ經濟ノ道ヲ
守リテ人ノ貪苦ヲ賑恤シ而シテ長途ノ游歷ニ支給シ疾病
ヲ療養シ著書ヲ印刷スル等用度頗ル浩繁ナリシト雖モ
皆ナ自ラ之ヲ辨シテ毫モ世襲ノ家産ニ着手セス恰モ伯
父ヨリ承襲セシ時ノ如ク減セス増サスシテ之ヲ其子ニ

遺シタリ

千七百十五年陸軍中佐某ノ女セーンドラルヲ娶リ
テ一子二女ヲ生ノリ其子ハ性質風采優美ニシテ文學ヲ
以テ稱セラレ乃父ノ子タルニ愧キスト云フ後伯鹽府大
學校ノ學士ニ叙セリ

原序

書中所論ノ事件千種百般其緒一ナラス若シ其中或ハ忌諱ニ觸ル、件アラハ予固ヨリ議論ヲ好ム者ニアラス又決シテ惡意ヲ挾ミ之ヲ著作セシニアラサルヲ世人ノ諒恕アラシコトヲ希望ス○古賢プラトーハ其ソクレートト時ヲ同クシテ生レシコトヲ喜ムテ天ニ謝シタル事アリ予モ清明ノ世ニ遭遇シ其政府ノ臣民ト為リ天ノ予ヲシテ愛顧セシムル所ノ人ニ順フ可キ玄旨ヲ虚クセサルヲ謝ス

予讀者ノ恩惠ヲ請フ可キ一事アリ乃チ看官臨時ノ涉獵ヲ以テ二十年ノ心血ヲ吐露セシ所ノ著撰ヲ批評スル

勿レ又一二章句ノ事ヲ以テ之ヲ判断スルヲ無ク宜ク全編ノ得失ヲ論シテ褒貶ヲ下ス可シ之ヲ要スルニ予カ趣意ノ所在ヲ穿鑿セント欲セハ全編ヲ通觀シテ彼此發明スル所アルニアラサレハ其肯綮ニ的中スルヲ能ハサルナリ

予カ第一ニ考究セシ所ハ人類ノ性情ニ在リ其制度風俗ニ至リテハ隨處千差萬別アリト雖モ然ル所以ノモノハ專ラ任意妄作ニ出サル事ヲ決定スルヲ得タリ予初ノ原理ヲ提起シテ之ヲ極点ト定メタレハ諸ノ節目ハ自ラ皆ナ此原理ニ合從スルヲ識得セリ又萬國ノ史傳モ亦此原理ノ結果セシモノニ過キス夫レ一法アレハ必

ス他法アリテ之ニ連合ス或ハ否サルモ大法ノ之ヲ統括スルコトアルヲ識得セリ

予古ヲ稽ハテ其事ヲ論スルニハ勉メテ古人ノ口氣語勢ニ肖似セリ否ラサレハ其實ノ異ナルモノヲ認メテ全トナシ而シテ其形相同シキモノヲ誤リテ異トスルノ臆測ニ陷ランコトヲ恐ルレハナリ

予カ揭示スル所ノ原理ハ固ヨリ物理ノ自然ニ出ルモノニテ決シテ偏見私意ニ由ルニアラサルナリ書中ノ事件ハ各其鎖鏈アリテ之ヲ他ニ結合セサルハナシ此鎖鏈ノアル處ヲ察スルニアラサレハ其理ノ真實ヲ看破スル能ハス讀者節目ヲ推究シテ其到ル所益深密ナ

レハ其原理ノ確定不易ナルヲ會得スルコト益多カラニ
然レル唯其大綱ヲ論シテ節目ヲ舉ケス蓋シ之ヲ列述ス
ルニハ非常ノ疲倦ニ堪ヘサレハナリ

今時著作ノ尚フ所豪放ニ在リ此書ヲ讀ム者豪放ノ議論
ヲ觸目スルコトナカル可シ苟モ事物ヲ推究シテ其蘊奧ヲ
究メサルモ實着ヲ旨トスレハ豪放ノ議論ハ自ラ止ムモ
ノナリ專ラ心思ヲ事物ノ一偏ニ注着シテ他ノ一偏ヲ遺
漏スルニアラサレハ豪放ノ言ヲ發シ能ハサルナリ
著撰ノ趣意ハ異邦ノ制度文物ヲ誹議セント欲スルニア
ラズ各邦ノ人民此書ニ於テ治道ノ訓典トモスヘキ道理
ヲ發明スルコトアルハシ是即チ物理ヲ推論スル基本ナリ

而シテ之ヲ改革スル事業ノ如キニ至リテハ一國ヲ組織構
造セル所ニ通達シタル叡智賢明ノ天稟ニアラサレハ企
テ及フ可ラサルナリ

民心ノ開否ハ大ナル關係アリ輕忽ニス可ラス抑モ官吏
ノ偏私アルハ其原一國人民ノ偏私ニ萌芽ス蒙昧ノ世ニ
アリテハ偏私ノ人民兇暴ヲ極ムルニ至リテ怪ヤハ時運已
ハ開明ニ赴ケハ一變ニテ純良トナリテ福利ヲ増加スル
時ニ於テモ却テ恐怖ノ心ヲ懷キ而シテ往事ヲ鑑ミ其弊ヲ
悟リテ之ヲ改革セサル可ラサルヲ會得ス然レモ之ヲ改
革スルニ就テ其弊アルヲ免レサルヲ以テ若シ之カ爲メ
更ニ大害ヲ招クト察知スレハ則チ現在ノ小害ヲ容忍シ

テ改メス又之ヲ改革シテ大利ヲ得ルノ確証ヲ預見セサ
レハ則チ當時ノ小利ニ安着シ全部ノ利害ヲ判斷スルニ
ハ先ツ其各部ヲ分析シ其効驗ノ得失ヲ看破スルニハ先
ツ其原由ヲ審察ス

此著撰若シ各人ニ其義務ヲ盡シ其君ヲ敬シ其國ヲ愛シ
其法ヲ守ル可キ新理ヲ附與シ且各人ヲシテ其國家政府
ヲ感戴セシム可キ福祉ニ浴セシムルノ効驗アラハ予ハ
信ニ塵世中ニテ幸福ノ大ナルモノナリ

若シ此著撰以テ在上ノ人ヲ説諭シテ其國家ヲ經綸ス可
キ智識ヲ擴充セシメ又在下ノ民ヲシテ其順從ヨリ出ル
所ノ樂地ヲ覓得セシムルノ裨益アラハ予ハ信ニ塵世中

ニテ幸福ノ大ナルモノナリ

若シ此著撰人民ヲシテ其偏私ノ疾ヲ癒セシムルコトヲ
得ハ予ハ信ニ塵世中ニテ幸福ノ大ナルモノナリ但シ偏
私ノ疾トハ人ヲシテ事物ノ理ニ昧カラシムルノ謂ニテ
ラス人心物ニ蔽レテ己レヲ知ラサルヲ之謂フナリ

著撰ノ趣意ハ人民ヲ啟牖シテ汎愛ノ意ヲ含ム所ノ恒徳
ヲ脩メシムルニ盡カスルナリ夫人性ハ柔順ナルモノニ
テ其世ニ立テ人ニ交ルニ當リテハ他人ノ思想意見ニ薰
陶誘掖セラル、モノナハカ故ニ己レ曉得スル所ヲハ
以テ自己ノ性質ヲ辨識スルヲ得否ヲサレハ之ヲ辨識ス

ル能ハサルナリ

予一事、稿ヲ起シ從テ之ヲ塗抹セシコト當ニ數回ニ止
ラス又成稿シタル手筆、葉子ヲ風頭ニ委棄セシモ無慮
數千ニシテ實ニ毎日著撰ノ材ノ盡キタルヲ覺ユタリ予
其初一定ノ模範ヲ設ケシト無ク唯自己ノ目的ニ從テ而
已ニテ規則ヲ立テス又變格ヲ知ラス故ニ或ハ事實ヲ見
出スコトアルモ從テ得レハ從テ失フタリ然レモ一タビ
根基タル原理ヲ發明スルニ至レハ搜索スル處ノ條目悉
ク現出セサルハナシ此ノ如ク刻苦勉勵シテ二十年ノ寒
暑ヲ積ム其間ニ此著撰萌芽ヲ發シ生長豐熟シ遂ニ果實
ヲ結フニ至レリ

此著撰僥倖ニシテ若シ世上ニ流行スルニ至ラハ予ハ之

ヲ專ラ其實ノ重大ナルニ歸シ敢テ自己ノ功ト為サ、
ル可シ然レ氏此書タルヤ全ク秀拔ノ處ナキニ非サレヲ
信シテ疑ハス曾テ佛英日ノ諸國ニ於テ前賢ノ大文章ヲ
讀ミ讚嘆スル事アリト雖モ常ニコレジョーノ所謂吾
モ亦畫人ノ一語ヲ服膺シ決シテ銳氣ヲ挫折ヒサリシナ
リ按コレジョーハ伊太利ノ畫人ナリ常テ古人ノ名畫
ヲ見テ其及テ可ラサルヲ察シテ筆硯ヲ燒カント欲ス
後自ラ發憤シテ云フ我モ亦畫人ナリ豈古人ニ及フ可
ラハルノ理アラシヤト是ヨリ畫學大ニ進ミシト云フ

萬法精理前編目錄

第一卷 總論

第二卷 直チニ政府ノ形質ニ出ツル處ノ諸法ヲ論ス

第三卷 政府三類ノ元氣ヲ論ス

第四卷 教育ノ法ハ當ニ政府ノ元氣ニ関涉ス可キ事

第五卷 制法者所制ノ法ハ當ニ政府ノ元氣ニ関涉ス可キヲ論ス

第六卷 政府ノ元氣ノ相異ナルニ從テ民法刑法ニ繁簡ノ差アリ審判ノ体裁及刑罰ノ輕

重ニ不全アルヲ論ス

第七卷

政府ノ元氣相異ナルニ從テ節儉律奢侈ノ程度及婦人ノ分限ニ不全ヲ致ス
ヲ論ス

第八卷

政府ノ元氣ノ頽壞セルヲ論ス

第九卷

守軍ニ関涉スル法律ヲ論ス

第十卷

攻軍ニ関涉スル法律ヲ論ス

第十一卷

國憲ニ関涉シテ政權ヲ定ムル處ノ法律ヲ論ス

第十二卷

人民ニ関涉シテ政權ヲ定ムル處ノ法律ヲ論ス

第十三卷

徵稅ノ方法及國家歲入ノ多寡ハ人民ノ自主權ニ関涉アルヲ論ス

第十四卷

法律ノ風土ニ関涉スルヲ論ス

第十五卷

民權上ニテ奴隸アルノ法律ハ風土ニ関涉スルコトヲ論ス

第十六卷

一家中ニ奴隸アルノ法律ハ風土ニ関涉スルコトヲ論ス

第十七卷

政權上ニ服役ノ法律アルハ風土ニ関涉スルコトヲ論ス

第十八卷

法律ハ邦土ノ地質ニ関涉アルコトヲ論ス

第十九卷

國民ノ精神道義力及習俗ヲ爲ス處ノ元氣ニ係ル法律ヲ論ス

第二十卷

貿易及其類別ニ係ル法律ヲ論ス

第一卷 總論

第一回 法ノ萬物ニ關涉スルヲ論ス

第二回 性法

第三回 人法

第二卷 直チニ政府ノ形質ニ出ル諸法

第一回 政府ノ三類各其形質ノ同シカラサルヲ論ス

第二回 共和政治ヲ論シ併セテ民主政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

第三回 貴族政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

第四回 立君政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

第五回 立君政治ニ関涉スル諸法ヲ論ス

第三卷 政府三類ノ元氣ヲ論ス

第一回 政府ノ形質ト元氣ト相同シカラサル

ヲ論ス

第二回 政府各其元氣ノ異ナルヲ論ス

第三回 民主政ノ元氣ヲ論ス

第四回 貴族政ノ元氣ヲ論ス

第五回 立君政ノ元氣ハ懿徳ヲ旨トセサルヲ論ス

ヲ論ス

第六回 立君政ニ於テ懿徳ノ缺ヲ補ノハ何物

タルヤヲ論ス

第七回 立君政ノ元氣ヲ論ス

第八回 名譽ハ專制政ノ元氣ニアラサルヲ論ス

第九回 專制政ノ元氣ヲ論ス

第十回 政体ノ寛暴ニ依リテ順從ノ義ニ不同

アルヲ論ス

第十一回 結論

萬法精理卷之一

何禮之重譯

總論

第一回 法ノ萬物ニ關涉スルヲ論ス

法トハ其廣義ニ就テ之ヲ云フキハ事物ノ天然ニ出
テ須臾モ離ル可ラサル處ノ關涉ナリ○其義然ルヲ
以テ兩問萬物々トシテ其法ヲ有セサルナシ故ニ神
明ハ神明ノ法アリナルタルキ曰法ハ諸神及諸人ノ君主トリ物体ハ物体ノ
法アリ人ニ勝レタル靈覺者ハ人ニ勝レタル靈覺者
ノ法アリ人類ハ人類ノ法アリ禽獸ハ禽獸ノ法アリ

或人、論ニ曰ク吾人仰テ視俯シテ察スルニ覆載間
萬有ノ効果アル皆テ造化無心ノ氣數ニ出テサルハ
ナシト嗚呼妄誕ナル哉造化果シテ無心ナラハ夫將
何ニ由リテ此靈覺アル生物ヲ造ラニ豈無心ヲ以テ
有識ヲ生スルノ理アラシヤ
爰ニ理ノ元行タルモノアリ此理ト諸物トノ間ニ関
渉ノ存スルアリ諸物ノ中互ニ彼此ノ關渉アリ是即
テ法ナリ

上帝ト天地萬物トノ關渉ニ就テ云ヘハ上帝ハ其造
化主ト爲リ其保護主ト爲ル其初ノ萬物ヲ創造セシ
處ノ法ハ其後之ヲ保護スル處ノ法ナリ唯上帝ハ此

法ヲ知ル故ニ其工化一モ其法ニ適セサルハ無シ上
帝ノ此法ヲ知ルハ之ヲ創造セシニ由ル之ヲ創造セ
シハ此法ノ能ク上帝ノ大智大能ニ關渉スレハナリ
天地モト物素ノ運行ニ依リテ成リ曾テ意識ヲ有セス
然レ一成直ニ數十年ノ久シキニ亘リテ紊レサルヲ
見レハ則チ自ラ一定ノ法アリテ其運行ヲ節制スル
ヲ知ル若シ吾人能ク別個ノ世界ヲモ窺ヒ測ル可キ
時ハ亦自ラ其不易ノ法アルヲ看破スルニ至ル可シ
未タ法ナクシテ能ク生存スル物ハアラサレハナリ
造化ノ工夫ハ此ノ如ク一定ノ法アリテ其運行ヲ節
制スト雖モ皮膚ノ見ニテハ偶然ニ出ルモノニ似タ

故ニ未タ人法ノアラサル以前天地間既ニ公義正直ノ關涉アリ之ニ由テ此公義正直アルコトヲ認識ス之ヲ例スルニ人類ノ交社既ニ設立スル時ハ衆人其法ヲ遵守スルヲ以テ義務ト爲ス可シ然ルヲ以テ若シ靈覺者アリテ他ノ靈覺者ヲ創造スルハ受造者ニ在リテハ其從屬ト爲リテ始終其初ノ慈仁ヲ忘ル可ラス若シ一ノ靈覺者他ノ恩惠ヲ蒙ルハ之ヲ感悅シ或ハ他ヲ損傷スルハ其報復ヲ受ケサル可ラサルナリ然レモ靈覺ノ區域ハ之ヲ治ムルヲ甚ク難ク形休ノ區域ヲ治ムルノ容易ナルカ如クナラス蓋シ靈覺ナルモノモ自ラ其法ヲ具スルノミナラス其

法ノ木体稍一定シテ易ハラサレハ形体ノ區域ノ如ク其作用盡ク規ニ從ヒ矩ヲ蹈ハハハハハハハハ何如トナレハ靈覺ノ區域ハ其度量限リアルモノニテ動モスレハ其制限ヲ踰エテ忽チ過誤ノ境ニ陥ル殊ニ其性タル運爲ノ自由ヲ好ハニ依リテ確乎トテ原法ヲ恪守スルヲ能ハス甚シキハ自ラ法ヲ立テ自ラ法ヲ破ルヲ免レサル者往々之アリ禽獸ハ之ヲ治ムルニ或ハ萬物運用ノ通法ヲ以テスルカ又特異ノ法ニ依リテ之ヲ御スルカ確知ス可ラズト雖モ其動靜スル處ニ就キテ之ヲ觀レハ上帝ニ關涉ナルノ情狀甚ク疎遠ニシテ之ヲ自餘ノ諸物質

ニ比シテ敢テ差異アルヲナシ其感覺ヲ運用スルニ
至リテモ亦異類全類ニ應シテ關涉ノ親疎アラサル
モノナリ
禽獸ハ遊樂ニ誘掖セラレテ能ク其一身ヲ保護シ此
感覺ニ頼リテ其全類ヲ保續ス此感覺ヲ備フルヲ以
テ固ヨリ天然ノ性法ニ適合スレバ唯知識ヲ兼有セ
ルニヨリ自ラ法則ヲ創制スルコト能ハス而シテ
其能天然ノ性法ニ則リテ是モ悖戾スルコト無キニ
至リテハ感覺知識全ク缺クル處ノ草木ニハ如カサ
ルナリ
禽獸ノ性タル吾人ノ稟ケ得テ以テ物ニ勝ル處ノ靈

明智能ヲ有セス然レバ或ハ吾人ノ稟賦セサルモノ
ヲ稟得ス彼物ヲ欲スル心ナシ故ニ物ヲ恐ルノ情
ヲ死ハ人獸ノ別ナク皆免ル可ラサルハ論ヲ俟タ
ザレバ其一身ヲ保護スルニ至リテハ之ヲ戒防スル
事概子吾人ノ及ハサル處アリ且其情欲ヲ放縱スル
コトモ人類ニ以スレハ又甚シカラストス
今夫人民ヲ以テ有形ノ一物トシテ之ヲ論スルハ
自餘ノ萬物ト全ク一定不易ノ法ニ治メラレ其範圍
ヲ脱スルコト能ハスト雖モ靈覺ナル物トシテ之ヲ
論スルハ時々刻々上帝所造ノ法ヲ犯シ破リ又其
自ラ制定スル處ノ法ヲモ變更ス蓋シ人類ノ性タル

其度量限リアルモノニテ自餘ノ靈覺庸劣ナルモノト齊ク規矩ヲ超エテ過失ニ陷ル可キノ弊アルノミナラス己カ意向ニ任セテ進ミ他人ニ束制セラルハ好マス且其知識アルモノ未タ十分ナラズシテ事物ノ善惡ヲ辨識スル事能ハス無量ノ情欲ノ發動スルニ依リテ兼爽ノ良心ヲ放失スレハナリ○人類ハ斯ノ如ク時々造物主宰ヲ忘却スルヲ免レス上帝因テ教法ヲ立テ其義務ヲ垂示ス○人類ハ斯ノ如ク瞬時ノ間ニ其身ヲ忘棄スル弊アリ因テ性理學ヲ設ケ道義ノ法ヲ立テ其自暴自棄スルヲ防救ス○其相集リ相交ルニ方リテハ其全類ヲ忘棄ス因テ制法家出テ

、政法ヲ立テ民法ヲ作り以テ之ヲ義務ノ區域中ニ羈束シテ踰越スルヲ勿ラシム

第二回 性法

諸法未曾有ノ前ニ方リテ一法アリ性法ト云フ性法トハ全ク人ノ形体生氣ニ依リテ其形迹ヲ顯ス者是ナリ性法ヲ熟知セント欲セハ人類生造ノ初未タ自他ノ交際ヲ爲サハルノ前ニ就キテ之ヲ想像ス可シ此景況ニ在リテ稟受スルモノニアラサレハ性法ニハアラサルナリ
茲ニ一法アリ人ノ意中ニ上帝ヲアル事ヲ銘鑲シ以テ歸依ノ念ヲ起サシム此法ハ性法中ニ在リテ其序

次ヲ云ハハ第一ニアラスト雖モ其旨趣ノ緊要ナル
ニ至リテハ之ヲ第一ト為サ、ルヘカラス。○夫人類
受造ノ初天然ノ景況ニ止リテ未タ學習的ノ知識之
ヲキノ時ト雖モ既ニ事物ヲ知ル可キ機能ヲ具セサ
ルハ無シ然レハ則チ人生ノ最初ニ發スル處ノ意向
按我ヲ造リ我ヲ司トルハ考測ニ出ルニアラサルヤ
上帝ノ有ルヲ知ルヲ云ハ考測ニ出ルニアラサルヤ
明瞭ニシテ未タ此身ノ本ノ何物ヨリ成ルヲ知ラサ
ル早ク既ニ其身ヲ保護スルコトヲ謀ルカ如シ。○
人類此草昧ノ時ニ方リテハ唯己カ孱弱ナルヲ感覺
シテ畏怖恐懼ニ堪ヘ難キノミニテ他念アルヲナシ
若シ一例ヲ引證センニハ深山ニ棲ム麋ノ野蠻木葉

ノ動クニ驚キ物影ヲ見テ走ルカ如キ是ヲ英王ジ
第一世ノ時哈拿威ノ深山中ニテ一蠻民ヲ捕ヘ之ヲ
英國ニ携帶シタリ其情狀モ本文ニ異ラサリシ
此ノ如ク各人互ニ自ラ其カノ孱弱ナルヲ顧慮スル
ヲ以テ敢テ自他全等ノ意ヲ生スルヲ殆ト罕ナリ故
ニ未タ彼此相爭フノ患ナシ因テ知ル平和ハ性法中
ニテ第一ノモノタルコトヲ

霍畢士ノ人類ノ互ニ相克チ相服サレムヲ以テ其
天性ノ發動即チ情類ノ然ラシムル處ト為セシハ確
當ノ論ニアラス夫國ヲ攻メ地ヲ畧シテ帝王ノ大業
ヲ興スカ如キハ其起ル處必ズ許多ノ思想ノ集リ成
ルモノニシテ人類創生ノ初ニ當リテ稟得スル處ニ

アラサル可シ

霍畢士問テ曰ク若シ人性果シテ闘争ヲ好ム者ニア
ラストセハ行クニ兵器ヲ携ヘ居ルニ門戸ヲ鎖スハ
何ノ為ソナルヤト是皆人類ノ交社設立ノ後ニ就キ
テ起ル處ニシテ之ヲ以テ天然ノ初ヲ論ス可ラス何
如トナレハ人未タ相交ラザルノ初ハ曾テ人ヲ害シ
身ヲ護ルノ念頭ヲ起サレハナリ
人類先其身ノ孱弱ヲ感覺シ之ニ續キテ物ヲ需ムル
ノ意思ヲ生ス可シ然レハ飲食滋養ヲ求ムル情願ノ
發動スルヲ以テ亦性法中ノ一ニ歸ス可キナリ
既ニ論セシカ如ク恐懼ノ念アルニ依リテ人ヲシテ

互ニ相忌ミ相避ケシム然レハ恐懼ノ痕迹彼此ノ心
中ニ相存スルカ故ニ一轉シテ自他相親ムノ念頭ト
為リ恐懼ノ心却テ親睦ノ媒ヲ為スナリ加之此親睦
交歡ノ情ハ人類其全類ノ来ルヲ見テ相喜フノ情ニ
從テ起ルモノニシテ男女其性ノ異ナルニ依リテ相
慕ヒ相思フノ情モ亦全類ノ歡樂ヲ厚クス人類此至
情アルハ是天性ノ然ラシムル處ニシテ性法中ニア
リテ第三ニ属ス

人性ノ知覺ハ禽獸ト異全アルニアラス然レハ知覺
ノ性上更ニ學習的ノ知識ヲ得可キ利益ヲ有ス是人
ノ萬物ニ優ル所ノ原因ノ第二ナリ故ニ人ノ相親ム

「好ムモ亦天性ノ然ラシムル處ニシテ其群居ヲ
欲スルノ情ハ性法中ニテ第四ニ屬ス

第三回 人法

人相集リテ一交社ヲ立ルニ至リテハ所謂恐怖ノ心
消散シ彼我全等ノ念止息シ而シテ後始メテ争鬭ノ
景況ニ推移ス

既ニ許多ノ交社アレハ各社互ニ其權カアルヲ覺エ
テ強ハ以テ弱ヲ凌カント欲スルニ至ル是則チ兩國
ノ人民相戰フ可キ禍機ノ生スル所以ナリ一社中ニ
就キテ之ヲ云ハハ人民互ニ其權カヲ覺エテ一社ノ
大益ヲモ掠ノ取リテ一己ノ私有ト為シコトヲ謀ル

是則チ人民交相争フ所以ニシテ事大小ノ別アルノ
ミニテ其機ハ一ナリ

然レハ一社一人ノ鬭争ヨリシテ遂ニ兩國鬭争ノ勢
ニ馴致ス是人法ヲ設立スル所以ノ根抵ナリ人類ヲ
一渾シテ之ヲ一球星上ノ人民ト看做スハ其一球
中許多ノ殊俗異風ヲ併載セサルヲ得ス而シテ其中
ノ人民相互ニ往來シ彼我交際ヲ為スニ就キ之ニ関
渉スル處ノ法制アリ萬國公法是ナリ之ヲ一交社ノ
會員ト看做シ其一社ヲ保持シテ失墜ナカシメン
ト欲スルニハ則チ上ニ立チテ人ヲ治ムル者ト其下
ニ在リテ之ヲ奉戴スル者トノ間ニ關涉スル法制ナ

カル可ラス其法ハ所謂政法。是ナリ政法ト云ヒ公法
ト云フ此二類ノ外一交社ノ人民互ニ相交ルニ關涉
スル法則ナカル可ラス所謂民法。是ナリ
萬國公法ノ綱領トスル處ハ列國互ニ相交ルニ當リ
テ平和ノ時ニハ勉メテ彼此ノ福利ヲ増進シ兵ヲ用
フルニ至リテハ勉メテ損害ノ斟ナキヲ要シ而メ自
國ノ實利實益ヲ害セサルニ在リ
戰ノ目的ハ克ノ一字ニ歸ス克テハ則チ之ヲ取り取
レハ則チ之ヲ保ツニ在リ此綱領及前文ノ道理ヨリ
シテ都テ萬國公法ノ條規發出スルモノナリ
各國文野ノ別ナク天下ヲ舉テ皆公法ヲ有セサルモ

ノナシイロクオイス土蕃（按北亞米利加洲中當時細
部ノ造ニ任ム土蕃部落ノ
名ノ如キハ囚虜ノ肉ヲ食フノ蠻風アリ然レ氏外國
ノ使臣ヲ送迎シ能ク和戰ノ權利ニ通ス而シテ其夷
醜ヲ免レサル處ハ其公法未タ曾テ真理上ニ根抵セ
サルヲ以テナリ
是故ニ萬國公法アリ以テ滿天下ノ交社ヲ統治ス其
他政法アリ以テ其一交社ヲ管理ス未タ政府ノ体裁
定立セスシテ交社ノ能ク存在スルモノハアサナル
ナリグラウ井ナリ論シテ曰ク各個人民其權カノ會
萃スル處是乃チ吾人ノ所謂國家（ボリチナルモノ
ナリト真ナル哉

國家ノ公權ハ或ハ一人ノ手ニ屬シ或ハ衆人ノ手ニ
歸ス或人以為ラク父母ノ權威ヲ有スルハ天理ノ自
然ニ出ツルモノナリ故ニ一人主宰ノ政府ヲ以テ最
モ天理ノ當然ニ近キ者トスト此比喻ハ之ヲ茲ニ用
ヒテ其當ヲ得ス何如トナレハ既ニ父母ノ權ヲ以テ
一人主宰ノ政府ニ比スルハ衆議ニ依リテ國政ヲ
施ス者ヲ父母没セシ後兄弟ノ權又兄弟ノ死後ハ從
兄弟ノ權ヲ以テ共和シテ一家ヲ治ムルニ比スル
亦理ノ宜ク然ル可キ處ナレハナリ殊ニ一國政權ノ
如キハ必ス數家族ノ聯和合同ニ出テサル可ラサル
ノ勢アリ

事理ノ當然ニ出テ最モ能ク適中スル政府ト稱ス可
キニハ其施設スル處ノ規模條理能ク之ヲ設立ス
ル處ノ人民ノ性情ニ應スル者ノ外ニアラスト謂サ
ルヲ得ク

人民各個ノ權力ヲ總括スルハ其心志ヲ收攝會萃ス
ルニ非サレハ能ハスガラウ井ナリ亦曰ク其心志ノ
會萃スル處是乃チ吾人ノ所謂民人スナリト是ナリ
ト至當ノ論トリナ

夫法ハ通シテ之ヲ云ハハ地球上ノ人類ヲ統治ス可
キ處ノモノニシテ乃チ人理ヨリ成ルモノナリ而シ
テ一國ノ中ニ於テ特ニ政法アリ民法アルハ機ニ應

シ類ニ觸レテ設クル處ニシテ人理ノ一部ヲ活用ス
ルモノト知ル可キナリ

政法民法ハ宜ク其國民ノ制俗ニ應シテ制定シ一國
法ヲ他國ニ移シテ適應スルモ全ク偶然ノ機ニ出ル
カ如クナルヲ要ス

此ニ法ハ現立ノ政府或ハ茲ニ創立セント欲スル處
ノ政府ノ形體ト其元氣トニ關涉スルヲ要ス乃チ此
政法ニ依リテ此政府ヲ樹立シ此民法ニ依リテ此政
府ヲ維持スレハナリ

國家ノ爲ノニ法律ヲ制定スルニハ宜ク其國風土ノ
寒燠土壤ノ肥瘠其位置廣狹及其民ノ營業
農工商漁
獵牧等

差異ニ關涉シ且其建國ノ憲典ニ依リテ人民ニ付與
スル處ノ自由權ノ厚薄若クハ其信奉スル處ノ教法
ノ異全及風習世俗ノ好惡戸口ノ疎密貧富奢儉貿易
交際等ノ關涉ヲ參伍斟酌セラル可ラス○之ヲ要ス
ルニ法律ノ創制スル處ノ淵源ハ必竟制法者ノ意思
及ヒ之ノ設立スル事情ノ緩急形勢ノ順序ヲ照シテ
彼此關涉スル處アリ凡ソ此數件ハ悉ク之ヲ包括シ
テ一モ省畧ヒサルヲ要ス

此書中論セント欲スル處ノ要旨ハ乃チ茲ニ列載ス
ルモノ是ナリ此ノ自他關涉ノアル處ヲ論究考察ス
ル事即チ萬法ノ精理タレハナリ

記者專ラ法ノ精理ヲ論セント欲スルカ故其講究ス
スル處唯其精理ニ注目シテ其條目ヲ顧ルニ暇アラ
ス且政法民法ノ二者ヲ渾全合一ニシテ論スル所以
ハ蓋シ精理ハ法ノ諸物ニ關涉シテ起ル處ニ存スル
ヲ以テ其關涉及ヒ諸物ノミニ止リテ法律固有ノ順
序ノ如キハ之ヲ省畧セガルヲ得サレハナリ
記者卷首ニ先ツ諸法ノ其政府ノ形質ト其元氣トニ
關涉スルコトヲ考究ス但シ此道理ハ法ヲ感動スル
コト甚タ顯著ナルニ依リテ記者最モ潛心反覆シテ
其蘊奧ヲ講究セント欲ス此道理一タヒ定マレハ諸
法自ラ湧出シテ其形迹ヲ顯ス事恰モ泉流混々之ヲ

汲ミ盡キサルカ如シ讀者頃ク此大意ヲ了解シテ
後其節目ニ進ミ到ル可シ

萬法精理卷之一終

萬法精理卷之二

何 禮之重譯

直チニ政府ノ形質ニ出ル諸法ヲ論ス

第一回 政府ノ三類各其形質ノ全シカラサル

ヲ論ス

レプツブリツク共和ナリ、モナルキ一立君ナリ、ダスポテ井
メム政治ナリ之ヲ政府ノ三類ト稱ス此三類ノ形質ヲ知
ラント欲セハ尋常ノ見解ヲ下シ之ヲ求メテ其字義事蹟
ヲ得ハシ即チ人民ノ全部或ハ其一部ニテ一國ノ政權ヲ
掌握スル之ヲ共和政治ト云フ一君アリ一定ノ憲法ニ則

リ。以テ其國ヲ治ム之ヲ立君政治ト云フ。一入ノ喜怒ヲ以テ政務ヲ任意放行シ制度法憲ノ之ヲ束制スル者ヲキ之ヲ專制政治ト云フ。

各政府ノ形質概シ此三類ニ外ナラス此形質ノ異全ニ依リテ各自ニ其資生ノ諸法アリ從テ又其政府ノ基礎ト為ル可キ大憲ヲ釀出ス此卷都テ其事理ヲ講究スルナリ

第二回 共和政治ヲ論シ併セテ民主政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

共和政治ニ二類アリ人民ノ全部ニテ其國政ヲ議シ其君權ヲ掌ル之ヲ民主政治ト稱ス若シ其政權人民中ノ一部ニ屬スル時ハ之ヲ名クテ貴族政治ト云フ

民主政治ニ於テハ其國民或ハ君主ト為リテ人ヲ治メ或ハ臣民ト為リテ人ニ治メラル

人民君權ヲ執行スルニハ司選ノ權利アルニアラサレハ之ヲ為ストト能ハス此司選ハ權ハ人民ノ心志ノ向フ處ヲ表スル者ニシテ人民ノ心志即チ君主ナリ是故ニ司選ノ權利ヲ定ムル所ノ法律ハ直チニ之ヲ其政治ノ大憲ト為サ、ル可ラス實ニ共和政治ニ於テ一定ノ憲典ヲ立テ以テ司選ノ人及被選ノ人ノ各限ヲ定メ其規則方法ヲ設クル等ハ固ヨリ緊要適切ナル事務ニシテ恰モ立君政治ニ於テ君主タル者ヲ奉認シテ其施政ノ範圍ヲ制立スルカ如シ

ルニ當リシカ故ナリ
共和政治ハ先其公會ニ出席スル人員ヲ限定スルヲ以テ
要領ト為ス然ラサレハ其議定スル處果シテ人民ノ全部
ニ係ルカ或ハ其一部ニ出ルカヲ計リ難ケレハナリス巴
爾達ハ嘗テ議員ヲ限定シテ一萬人ト為セリ之ニ反シテ
羅馬ハ其初至弱ノ一邑ニ勃起シ終ニ天下ノ政刑ヲ掌握
スルニ至リ時運ノ變遷ヲ經歷シ國勢ノ極衰ニ方リテハ

城中ノ民猶ホ其政令ニ服從セズ其極盛ノ時ハ國威ノ光

被ヤル所伊太利ハ勿論世界ノ八九ニ徧及セリ此ノ如キ
隆盛ノ國ニシテ曾テ議員ヲ限定セサリミナリ乃チ此一
事モ其覆滅ヲ招キタル原因ノ一ニ屬ス可キナリ

政權ヲ掌握スルノ人民ハ其力之ヲ為シ得ハキ者ハ親ラ
之ヲ為ス可シ其力ノ及ハサル機務ハ行政官ヲ置キテ之
ヲ奉行セシム可シ

人民自ラ行政官ヲ選任ス可キ權利アルニ非ハ行政官
ヲ看テ人民ノ執事ト做ス可キ條理無シ故ニ共和政治ニ
於テハ人民ニテ行政官ヲ選任ス可キ權利ヲ有スルヲ以
テ當ニ其大憲ト為ス可シ

共和政治ハ立君政治ニ於ルカ如ク議政官又ハ元老院ヲ

設置レテ其翼賛獻替ヲ求ム可シ此議院ノ須要ナルコト
ハ或ハ立君政治ニ勝ルモノアリ然レモ既ニ此議院ニ信
任シテ其弊害無ランコトヲ欲セハ先其議官タル者ヲ選
定スル方法ヲ調整セナル可ラス其法ハ雅典ノ如ク人民
ヲシテ親ラ之ヲ薦舉セシムルモ可ナリ羅馬ノ如ク國中
人民ニ命シテ其初幹事官ヲ保舉シ此幹事官乃チ人民ニ
代リテ其人ヲ薦舉スルモ亦可ナリ
人民ハ己カ推義ノ一部ヲ委托ス可キ者ヲ選舉スルニ甚
タ堪能ナルモノニレテ而レテ其選舉ヲ為スヤ必ス人民
ノ束手傍觀ス可ラサル事情ト衆目ニ觸レテ明瞭ナル事
實トニアルヲ要ス例ヘハ數回ノ戰鬪ヲ經過シ汗馬ノ功

勞アル者ハ其將畧名望能ク衆ノ知ル處ナレハ將帥ノ如
キハ人民ノ公選ヲ以テ其當ヲ得ルモノトス又法ヲ執リ
テ公平ニ理非ヲ審判シ毫モ冤枉ナク苞苴其門ニ絶エテ
能ク人民ノ心ヲ悅服セシムルモ衆ノ知ル處ナリ故ニ法
官ノ如キモ亦人民ノ公選ニ任セテ可ナリ又能ク其家ヲ
壯麗ニシ能ク其富ヲ致シ衆ニ知ラルハモノハ其人ヲ推
シテ以テ公物ノ總管タラシム可シ凡ソ此數事ハ皆人民
ノ耳目ニ登然タルヲ以テ其人ヲ選舉スルノ鑒定力ハ人
君ノ廟堂ニ於ルヨリハ人民ノ公會ヲ以テ更ニ優レリト
ス然レモ能ク紛乱シタル機務ヲ理ノ其地ニ應シ其時ニ
合シ機會ヲ失セスシテ政事ヲ執行マハト否トノ器量ノ

如キハ人民公會ノ機能ヲ得可キ處ニアラサルナリ
人材ヲ鑒別スル事ニ就テハ人民天稟ノ才賦アルアリ故
ニ古ヨリ一時ノ僥倖ニ出テ其選舉ヲ誤リタルヲ見ス之
ヲ雅典羅馬ノ政事ニ徴シ選舉ノ始末ヲ考ヘ以テ其疑フ
可ニサルヲ知ル可シ

羅馬ノ人民ハ平民ト雖モ國家ノ顯職ニ登庸セラルハノ
權利ヲ得タル平民ニ於テ曾テ自ラ其人ヲ選舉セザリ
雅典ニ於テハアリストタイデスノ法律アリテ貴賤貧富
ヲ論セス人民ヲ通シテ其中ヨリ宰官ヲ拔擢シタリ然レ
バゼノフオンノ言ノ如ク平民ニシテ一身ノ安危ニ係ル
位地ニ登庸セラレンコトヲ請願セシ者アルヲ見ス是吾

人ノ能ク知ル處ナリ

蓋シ衆ニ知ラレテ清要ノ選ニ當ル可キ賢材ニアラスト
雖モ能ク人ヲ知リテ之ヲ拔擢スル鑒職ハ人民ノ中八九
ハ皆具有スル者ナルカ故ニ他人ヲ擧ケテ重大ノ責任ヲ
負荷セシムルハ易ク自ラ其地位ニ居テ其事ニ擔當スル
ハ甚ク難キモノナリ

國事ヲ理ムルニハ須ク中庸ノ道ヲ行ク可シ施設ノ方法
急ニ過ク可ラス緩ニ失ス可ラス然レハ人民ノ行為舉措
緩ナレハ則チ怠惰ニ流レテ振ハス急ナレハ則チ激烈ニ
失シテ制シ難シ譬ヘハ千萬ノ手ヲ具シテ千里一瞬ノ勢
取テ之ニ當ル可テサルカ如キモノアリ或ハ千萬ノ足ア

ルモ其行ク處ハ咫尺ニ過キサルカ如キモノアリ
民主ノ邦ニ在リテハ人民ヲ區別シテ其品級族類ヲ定ム
ルナリ賢明ナル制法者其令名ヲ不朽ニ垂ル、モ共和ノ
政祚悠久ニ且リテ克ク其隆治ヲ保ツモ皆此區別ノ當ヲ
得ルト得サルトニ淵源スルナリ

セルウエスデユリユス按羅馬帝ノ名ハ貴族政治ノ趣意ニ基キ
テ人民ノ族類ヲ區分セリリウ井ー及ダイユニシユスハ
リカリナスヲ讀ミテ帝ノ公選ノ權利ヲ以テ國民中ニテ
巨擘タル可キ輩ニ賜與シタル方法ヲ見ル可シ其法國民
ヲ四類ニ大別シ再ヒ之ヲ小分シテ百九十三族ト為シ富
者ハ其數甚タ少キヲ以テ之ヲ第一族ニ列シ衣食豊裕ニ

シテ其員數稍多キ者ヲ第二族トナシ其級ノ下ルニ隨テ
員數彌増加シ竟ニ貧窶ノ小民ニ至リテ止ム而シテ一族
ノ公選ニ預ルヤ人數ノ多少ヲ論セス各一族一個ノ發言
ヲ得ルカ故ニ事實ヲ以テ之ヲ論スレハ民口ノ多少ニ拘
ラス唯資産ノ貧富ニ依リテ選舉ヲ定ムルノ趣意ナリキ
梭倫ハ民主政治ノ精神ヲ撮リテ雅典ノ人民ヲ四類ニ區
分セリ其趣意ハ他人ヨリ選舉セラル可キ人物ノ分限ヲ
定ムルニ在リ而シテ選舉ヲ為スノ權利ハ之ヲ人民一般
ノ公有ト為シテ別ニ法制ヲ立テシ事ナシ法官ノ如キハ
四類ノ中各族ヨリ之ヲ公選シ宰官ノ如キハ第一類ヨリ
第三類ニ至ル迄其家計豊饒ナル者ノ中ヨリ之ヲ選舉シ

第四類ノ貧民ハ之ニ預ルコトヲ得サリキ
 司選ノ權利ヲ得可キ人民ヲ區別スルハ共和政治ノ大憲
 ニ屬スルハ論ヲ俟タス此司選ノ權利ヲ付與スル方法モ
 亦政體中ノ一大憲タラサル可ラス
 投票ノ法ヲ行ヒ以テ人物ヲ公選スルハ民主政治ノ民主
 政治タル處ニシテ恰モ貴族政治ニ於テ人才ヲ簡選スル
 ノ制度アルカ如シ
 投票ノ制度ハ衆望輿論ノ歸スル處ノ人物ヲ公選スルモ
 ノニ屬シ且人民ヲシテ各其力ヲ其國ニ盡スノ希望ヲ起
 サシムル者ナリ
 然レモ投票ノ制度ハ頗ル虧缺スル處アリ未タ以完全ノ

モノト為ス可ラス故ニ古ヨリ賢明ナル制法者多クハ其
 典則ヲ改革釐正セント欲シテ勉勵餘力ヲ遺サ、リキ
 梭倫カ雅典ノ為メニ法制ヲ設立セシハ軍旅兵役ニ從事
 スル者ヲ以テ特命ノ選任ト爲シ法官及元老院ノ議員ヲ
 以テ投票ノ公選ト爲シ又文政官長ノ中ニテ其職ヲ執行
 スルニ付キ費用巨大ナル者ハ之ヲ特命ノ選任ト爲シ其
 他ハ悉ク投票ノ公選ト爲セリ
 右ノ投票公選ノ弊アル處ヲ矯正センカ為メニ特ニ規則
 ヲ設ケテ凡ソ公選ノ時ニ出頭セサル者ハ他人ヨリ薦舉
 ヲ得可ラス既ニ薦舉ヲ得ルモノト雖モ法官ニテ重子テ
 其人物ノ賢否ヲ檢査ス可シ若シ被選ノ人物庸劣ニシテ

其器其地ニ當リ難キモノハ彼我ノ論ナク人民一般之ヲ
彈効シテ可ナリトセリ一員ノ官吏ヲ選舉スルニ方リテ
ニハ其官ニ就ク可キ本人ノ姓名ヲ記シ第ニ票ニハ若シ
本人其資格ヲ失スル時ハ之ニ代ル可キモノ、姓名ヲ記
リ此規則ハ能ク投票ノ公選ト持命ノ選任トノ趣意ヲ折
衷參用セルモノナリ加之官長ノ任期既ニ滿チテ綴組ヲ
解クハニハ在職中ノ行狀ニ就キテ再ヒ審判ヲ仰カサル
ヲ得ス故ニ全ク其器量ニアラサルモノハ皆畏憚シテ苟
モ名ヲ賣リテ公選ヲ僥倖スルヲナカリキ
人民ニ司選ノ權利ヲ付與スル方法ヲ定ムルノ法律モ亦
民主政治ノ大憲トス可キ者ナリ而シテ此司選ノ權ハ公
然ト投票ノ法ヲ執行ス可キヤ或ハ之ヲ密票ニシテ投ス

可キヤノ議論アリ其關係鉅大ナラストビスセロノ論

ニテハ羅馬ノ季世ニ當リテ法律ヲ制定シテ選舉ノ法ヲ
隱密ニセリニ付與シ一票ニハ吾人ノ稱スルニ票ヲ各人民

ニハ汝ノ好ム如ク共和政治ノ衰廢ヲ招キシ原因ト云
クアレト記セリ之ヲ其法ヲ行フモ亦同シカラス故

ハリ然レ其國異ナレハ其法ヲ行フモ亦同シカラス故
ニ其利弊未タ一切ニ概斷シ易カニス乃チ鄙意ヲ左ニ陳
述シテ以テ之ヲ辨セントス

人民司選ノ權ハ之ヲ公然雅典ニ於テハ人民其手ト執行
ス可キハ固ヨリ論ヲ俟サル處ニシテ之ヲ民主政治ノ
大憲ト看做ス可シ賤民ノ如キハ必ス高貴ノ人ノ指示ニ
從フベク且ツ著名ナル人物ノ威望ヲ以テ之ヲ檢束シテ

分限ヲ超エサレシム可シ羅馬ノ共和政治ハ司選ノ權ヲ公然ト執行セス之カ為ノニ國事瓦解セリ蓋シ人民舉テ自ラ滅亡ヲ求ムルノ頽勢ニ方リテハ之ヲ銷束指示スルト雖モ挽回シ難ハサレハナリ然レモ貴族政治按勿忘西如ニ在リテ貴族ノ總体ニテ選舉ヲ為シ或ハ民主政治ニ於テ元老議員ヲ選舉スルカ如キハ其趣意全ク陰謀ヲ預防スルニ在ルヲ以テ極ノテ之ヲ秘密ニセサルヘカラス雅典ニテソルヲ井ノタイラニトニ政ノノ時ニハ其意ト欲スル所ニ從テ其政ヲ極ニヒンカ為ニタノ時ニハ其意ト按元老院ノ類ノ選舉ヲ民主政治ノ元老院ニ於テ陰謀公然ト為サシタリ民主政治ノ元老院ニ於テ陰謀暗算ノ行ハハ國ノ危險ニシテ甚タ恐ルヘキモノナリ貴族政治ニ於テ貴族總員ノ間ニ行ハハモ亦然リトス唯

人民ハ一時ノ血氣ニ激セラレテ舉動ニ及フ者ナルカ故ニ人民ニ此事アリト雖モ其害未タ必シモ危險ニ至ラム○人民ヲシテ絶エテ國事ニ參與セシメサル邦土ニ於テハ人民漠然トシテ國事ヲ憂慮セス適マ之アルモ猶ホ一時ノ興ニ乘シテ俳優ノ優劣ヲ品評スルカ如シ之ヲ要スルニ共和政治ノ災患ハ人民己ニ陰謀暗算ヲ為サハルノ時ニ在リ夫レ金銀ヲ以テ人民ノ心ヲ利誘スル時ハ人民ハ漸ク國事ヲ顧ミスシテ貪欲ノ一念其心ニ蟠マルアル而已ニテ遂ニ政府ノ機務ヲ坐視シ安然トシテ唯秩祿ヲ之レ問ノニ至ルハ必然ナリ

民主政治ニ於テハ人民ニ制法ノ全權ヲ得セシムルヲ以

テ大憲トスルヲ要ス然レモ之ヲ頒布スルノ權利ヲ元老院ニ委任セシ事ハ其例一ニシテ足ラス元老院ハ當ニ之ヲ頒布スル而已ナラス之ヲ定立セサルノ前ニ方リテ之ヲ試行シテ其利害得失ヲ視察スルモ至當ノ處分ニ屬ス

○羅馬及雅典ノ國憲ニ據レハ概テ元老院ヨリ頒布スル處、法律ハ一年ノ間ハ一時ノ法令ト看做シテ之ヲ試行シ其果シテ弊害ナク人民ノ悅服スルヲ待テ然後之ヲ永久ノ國律ト爲セリ實ニ治民ノ良謨ト云フ可シ

第三回 貴族政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

貴族政治ニ於テハ限リアル人民ニテ國權ヲ掌握シ制法執政ノ二權ヲ兼有シ其餘ノ人民ハ皆其治下ニ屬シ其狀

頗ル立君政治ノ君臣ニ髣髴タリ

貴族政治ニ於テハ投票ノ公選法アルヲナシ強ヒテ此法ヲ以テ此政ニ施スルハ其害アルモ決シテ其利ナキヲ以テナリ事實ニ就テ之ヲ論スルニ尊卑ノ忌ムハキ區別己ニ確立スル處ニ在リテハ假令投票ノ公選法ヲ行フト雖モ其忌ム處ノ區別ハ更ニ止息セサルニ依リテ人民ノ羨妬ハ到底貴族ニ在リテ宰官ニ在ラサレハナリ

貴族ノ負數衆多ナル時ハ特ニ元老院ヲ設ケ以テ其全責ニテ決定スルコト能ハサル處ノ事務ヲ整理セシメ或ハ其決定ス可キモノヲ區畫セシムルヲ緊要ナリトス然ルハ其政府ノ大体元老院ヲ以テ貴族政治ヲ表シ貴族ノ

全負ヲ以テ民主政治ヲ表シ庶民ニ至リテハ其實モ無ク
名モ無キモノト謂フ可キナリ
貴族政治ニ若シ能ク一法ヲ立テ陰ニ其庶民ノ全無ニ歸
スルヲ保存シ稍生氣ノ一端ヲ得セシメハ全國ノ洪福之
ヨリ大ナルハ莫カル可シ是故ニゼノ一ノ貴族政治ハ聖
若爾兒ノ銀行ヲ庶民ニ管轄セシメタリシニ依リテ其權
威少シク政府ニ推及シ而シテ一國ノ隆盛ヲ致シタリ
元老院ノ議員ニハ決シテ其僚員ヲ薦舉スル權利ヲ付與
ス可カラス弊害雖ヲ接シテ相生スル其源一トシテ茲ニ
起ラサルハナシ羅馬ハ建國ノ初ニ方リテ一種ノ貴族政
治タリシカ元老院ニ關員アリト雖モ其議員ニ自ラ代員

ヲ選舉スルヲ許サス監察官ノ選任ニ歸セリ之ヨリ以
テ選任ニ屬
共和政治ニ於テ一人崛起シテ無限ノ大權ヲ掌握スルコ
トアレハ其勢一轉シテ立君政治ニ變シ其變ノ極之ヨリ
モ甚シキ政治ヲ釀成スルニ至ルハ其故ハ立君政治ハ
猶ホ一定ノ憲法アリ或ハ國体ニ適當ナル典則アリ且其
政体ノ元氣能ク君主ノ專横ヲ抑制ス可ケレバ共和政治
ニ於テハ初ヨリ此等ノ患アルヲ預算セズ從テ之ヲ防禦
スル方策ヲ設ケス故ニ若シ一私人アリテ俄ニ過重ノ權
ヲ握ルハ之ヲ濫用シテ其禍極メテ大トルモノナリ
共和政治ノ敗止セシ然リト雖モ若シ國勢已ムヲ得ス

シテ無限ノ大權ヲ掌握ス可キ宰官ヲ置クヲ以テ一日モ猶豫シ難シトスル時ハ一時ノ權道ニ出テ敢テ此例ニ拘ラサルヲアリ羅馬ハ總督ヲ置キ勿尼西都察官ヲ立テ其權力ニ伏リ暴ヲ以テ暴ヲ制シテ殆ト國勢ノ痿痺スルヲ挽回シタリ但シ此二政府ニテ此二官ヲ設置スルヤ其原由全ク全シカラス羅馬ハ其人民ヲ壓抑シテ貴族ノ舊政ヲ回護スルニ在リ勿尼西ハ貴族ヲ屈服セシメテ其政ヲ維持スルニ在リ唯其之ヲ立ルノ意大ニ異ナルヲ以テ其結果ノ休ヒ亦齊シカラス羅馬ハ總督ハ一時ノ血氣ニ依リテ激動スル處ノ人民ヲ壓倒スルカ為メニシテ罔ヨリ深遠ノ謀慮ヲ以テ之ヲ預防スルニアラス故ニ其職ヲ以

テ唯一時ノ選ト定メタリ其官制如斯ヲ以テ其職掌トスル處人民ヲ威懾スルニ在リテ人民ヲ懲罰スルニアラサルカ故ニ勉メテ其威光ヲ熾盛ニシ其風采ヲ莊嚴ニシ又一時危急ノ事起ルニ非サレハ此官ヲ置カス此官アルハ必ス非常ノ際ニ在リテ非常ノ權威ヲ有シテ其勢己ムヲ得サルニ出タリ勿尼西ニ於テハ然ラス此國ニ於テ一タヒ謀慮計略ヲ企ツル時ハ之ヲ維持シテ止メス事遂ニ久遠ニ延クノ患アリ且一人不軌ヲ希フキハ一門其心ヲ懷キ一門ノ不軌ハ衆族ニ蔓延スルカ故ニ都察官ヲ以テ永久常任ノ官職ト為ス殊ニ此官ハ秘密緘默ノ中ニ轉生スル處ノ罪犯ヲ探索鈎距ス可キモノナレハナリ○此官

ノ職掌ハ著明ナル既發ノ罪犯ヲ禁止スルカ為メハア
ラスシテ之ヲ未發未覺ノ前ニ防止スルニ在ルヲ以テ探
訪視察ニ盡カセサル可ラス之ヲ要スルニ勿尼西ノ都察
官ハ猜疑ノ罪ヲ黜罰スルカ為メ之ヲ設ケ羅馬ノ總督
ハ全ク人民ヲ恐嚇スルノミニテ假令犯人アリテ顯然其
罪ニ服スト雖モ之ヲ懲罰セシコトハ稀ナリキ足其情勢
ノ同シカラサル所以ナリ
凡ソ官職ノ權強ニ過クル者ハ宜ク其任期ヲ短クシテ以
テ積重ノ勢ヲ抑制セサル可ラス議政立法ノ官吏ノ在職
期限ヲ大抵一年ト定メタルモ其主意全ク茲ニ在ルナリ
蓋シ任期長キニ過ルハ專横ノ勢ヲ醸成シ而シテ其甚

ク短キモノモ亦物理ニ戻リ且其事切舉ラサルノ弊アリ
試ニ思ヘ吾人一家ノ事務ヲ治ムルニモ斯ノ如ク拘束
加ヘテ其事ノ舉ルヲ期ス可ケンヤ○ラグサ一海岬ニ
在リシ小邦ニシテ第七世期ノ頃ニ其國ヲ建テ獨立シテ
共和ノ政治ヲ為シ後拿破崙ニ亡サル當時人口九千アリ
ニ於テ執政ノ長官ハ一月ニシテ其職ヲ解キ諸有司ハ一
周日ニシテ交代シ城堡ノ鎮將ノ如キハ值日ノ任ト為セ
リ蓋シ其國ノ封域甚タ狹小ニシテ其政ハ共和ノ体ナリ
而シテ強國其四隣ニ在リ之カ為メ小國ノ有司ナルモ
ノ其操守ヲ全クスルフト能ハサルカ故ニテ之ヲ他ノ政
治ニ施ス可キニアラスルツカニ於テハ官長
貴族政治ニ於テ若シ議政制法ノ事ニ關與セサルノ人莫

極ニ鮮乎或ハ其勢微弱ニシテ當路ノ者之ヲ壓抑スルヲ
屑シトヒサルニ至ラハ其政治誠ニ能ク舉リテ間然スル
處ナカル可シ○嘗テアンテイバートルノ雅典ヲ治メシ時
ニ一法ヲ制シテ凡ソ二千ドラクマノ資産ヲ有スル者ハ
公選ニ發言スル權利アリト為セリ二千ドラクマハ其數
額甚ク大ナラス部内ニ於テ聊カ体面ヲ存スル者ハ皆之
ヲ解シ得タリシカ故ニ人民中公選ノ發言ニ洩ル、モノ
極ノテ僅少ニシテ一種佳良ナル貴族政治ヲ設立セリ○
之ヲ要スルニ縉紳華族ハ成ル可ク其風采容儀ノ平民ニ
接近スルヲ要ス是貴族ノ政ハ其体益民主ノ政ニ近クニ
隨テ益隆盛益立君政ニ近クニ隨テ益其害多クレハナリ

貴族政治ノ疵瑕多キカ中ニテ最モ其害ノ大ナルモノハ
治下ノ人民當路ノ人ノ為ニ壓制セラレテ其自主權ヲ
得サル事猶ホ波蘭ノ貴族政治ノ如キ是ナリ波蘭ニ於テ
ハ百姓ハ貴族ノ奴隸ト爲レリ

第四回 立君政治ニ關涉スル諸法ヲ論ス

抑モ立君政治ノ形質ハ中間ニ在リテ隸屬依頼スル處ノ
權カヨリ成ル之所謂立君ノ政治ニシテ一君大憲ニ則リ
テ以テ其國ヲ治ム之ヲ中間ニ在リテ隸屬依頼スル處ノ
權カト云フナリ○實ニ立君ノ國ニアリテハ君主乃チ一
切政權民權ノ由テ出ル處ノ淵源ト為ルカ故ニ其大憲ヲ
以テ諸權ノ流出スル處ノ中間ノ溝渠ト定ムル事最モ緊

要ナリ何如トナレハ若シ國ヲ治ムルニ一人一時ノ喜怒ニ任セテ專斷スルハ凡百ノ事一定セス所謂大憲ナルモノ成立シ能ハサルハ論ヲ俟サレハナリ
立君政治ニ於テ隸屬依頼スル處アリテ事理ノ當ヲ得ルモノハ貴族ノ權ナリ貴族ノ權ハ立君政治ノ一日モ得テ缺ク可ラサル要具ニ屬ス此政ヲ為スノ要訣ハ君主ナケレハ貴族トシ貴族ナケレハ君主ナク其互ニ相依ルヲ觀ル可シ若シ此要訣ニ背馳スルハ其君主乃チ專制政治ノ帝王ト爲ルナリ

歐羅巴二三ノ邦國ニ於テ貴族ノ法權ヲ褫キ去ラント勵精盡カスル輩渺シトセス其實ハ英國巴里門ノ嘗テ經過

セシ處ノ履轍ヲ履ムヲ覺悟セサルナリ試ニ立君ノ政中ニ在ル貴族僧侶ノ特典ヲ止ノ府縣自治ノ權利ヲ棄ツ可シ其國忽チ民主ノ政治ト爲ラサレハ則チ一變シテ專制ノ政治ト爲ルハ必然ノ勢ナリ

歐羅巴中立君國ノ廟謨ヲ見ルニ數世ノ間貴族僧侶ヲ壓制シ其世襲ノ權利ヲ削奪スルニ從事スル者十ノ七八ニ居ル是則チ賢明ナル輔相ノ治術ニ出ル處ニシテ其得失ハ姑ク之ヲ置テ論セス果シテ此方略ニ頼リテ以テ其國ノ大憲ヲ豹變シ得ルヤ之ヲ世ノ公議ニ付セントス
予ハ固ヨリ僧侶ニ阿諛シテ其特典ヲ回護スルニアラス唯僧侶ノ權利ノ確立センコトヲ希望スル而已今茲ニ論ス

ル處ハ其權利ヲ設立スルノ是非ヲ問フニアラヌ唯其既ニ設立セシヤ且果シテ國律ノ一部ト爲リ而シテ其權利ハ始終其國ノ憲法ニ關涉スルヤ又對峙獨立スル處ノ政教ニ權ハ能ク其形情ノ平均ヲ得タルヤ又君主ノ特權ヲ維持シ古來彼ノ權利ニ歸セシ處ノ分界ヲ守ラシムルヲ以テ純良ナル國民ノ義務ト爲スニハアラサルヤニ在ルノミ

法教ノ權ハ共和政治ニ大害アリテ其禍恐ル可キ者アリト雖モ立君政治ニハ之ヲ存スル自ラ事理ノ當然ニ出ルモノアリ就中專制ノ政治ニ在リテハ決シテ缺ク可ラサルモノアリ昔時西班牙葡萄牙ノ兩國其法律憲典ヲ顛覆

セシニ方リテ若シ法教ノ權アリテ之ヲ保障ト爲ルニアラズンハ暴虐ノ政將ニ其毒ヲ逞クセサレハ止マサル可シ蓋シ專制ノ政ハ人生ヲ害シテ恐ルハキモノナルヲ以テ苟モ其暴威ヲ抑遏スル者ハ其性タル至善ノ者ニアラスト雖モ人民ヲ保護スルノ大功アリ此權ヲ藉リテ以テ憲典ノ保障ト爲スハ之ヲ除キテ他ニ依頼スルニ堪フルモノアラサレハナリ

海水ノ洋々トシテ全地球ニ汎濫スルモ海濱ノ砂礫草苔之ヲ遮キリ止ムル事アリ君權ノ熾盛ナル其威猛烈敢テ之ニ抵抗スル者ナキモ唯哀求懇請ノ聲ヲ以テ之ヲ挫折セシ事往々之アリ

英國ノ人民ハ其自主權ヲ鞏固ナラシメシメカ爲メニ王室
ヲ結構スル處ノ中間ノ権力ヲ廢シタリ英人ノ自主權ノ
爲メニ劬勞盡瘁セシハ萬々止ム可ラサル道理アルコト
ニ若シ不幸ニシテ一旦之ヲ失フハ其國民忽チ卑屈
ニテ奴隸視セラルレハナリ
ロー氏ハ共和又立君ノ政体ノ何物タルヲ曉得セサリシ
カ爲メニ專制ノ威權ヲ培養増長セシ事歐羅巴ノ諸邦ニ於
テ其比類アリシヲ見ス曾テ其施行ヒシ改革ヲ見ルニ過
激ニ出テ非常ヲ旨トス如之君ト民トノ中間ニ在ル爵位
ヲ廢シ政論上ノ社會ヲ除カント欲シ空漠ナル消債ノ計
略ヲ以テ立君ノ政体ヲ解キ而シテ再ヒ其廢セシ處ノ政

体ヲ贖フコトヲ欲セシ者ノ如シ
ニ叙レリ此一項事以テ其國憲ヲ變革セリ
立君政ノ依頼スル處ハ獨リ中間ノ権力アル而已ニテラ

又必ス法憲ノ藏府（按國會タルモノアリ且ツ司法院ノ類）

法官ノ曲直ヲ裁判スルモ亦此藏府ノ權ニ屬シ而シテ新法

ヲ創定シ舊制ヲ釐正ス可キヲ要ス蓋シ立君政ノ貴族多

クハ資稟暗愚ニシテ事理ニ通セズ氣力薄弱ニシテ吏治

ヲ蔑視スルヲ以テ政府中別ニ一局アリ其威權ニ代リテ

法憲ノ活動力ヲ振作シ以テソノ埋没ニ就ントスルヲ豫

防セサリ可ラマ君主ニハ内閣ノ議政官アリテ獻替ヲ掌

トル然レバ此議政官ハ原來君主一時ノ志意ヲ出納スル

處ニシテ而シテ政府ノ基趾タル法憲ヲ收藏スルニ足ラ
ス殊ニ内閣ノ議政官ハ君主ノ愛憎ニ依リテ進退黜陟セ
ラレ交代常ナク其負多カラス人民ノ信任ヲ負荷ス可キ
器量トスルニ足ラス是ヲ以テ内閣ノ議政官ハ危疑ノ事
起ルニ方リテ人民ヲ繩正整肅レ或ハ之ヲ鎮靜服從セシ
ムルノ権力ナキモノナリ

專制ノ政治ハ固ヨリ其基本トス可キ法憲ナキヲ以テ又
之ヲ收藏ス可キ部局アルコトナレ故ニ此類ノ邦國ニ在
リテハ法教常ニ分外ノ権力ヲ有レ法憲ヲ收藏スル處ト
為リテ其斷絶セントスル綫緒ヲ繫ク若レ法教ノ以テ之
ヲ藏府ト為ルモノアラサルハ必ス一定ノ風習制俗ア

リテ法律ニ遜ラサルノ権力ヲ具有スルアル可シ

第五回 專制政治ノ形質ニ關涉スル諸法ヲ論ス

專制政ノ專制政タル所以ノモノハ君主一人ニテ無限ノ
君權ヲ具有シ而シテ此君權ヲ施行ス可キ権力ヲ擧ゲテ
再ヒ之、他ノ一人ニ委任スルニ在リ夫人自ラ至尊ノ地
ニ居テ目下盡ク其僕妾ニシテ萬事唯我一身ノミニテ他
人ハナシト抱負スルハ荒淫驕奢怠傲暗愚ニ至ラサル
ヲ欲スト雖モ決シテ得可ラサルナリ是故ニ專制政ノ君
主政務ヲ怠リテ顧ミサルハ必然ノ勢ナリ若シ此時ニ方
リテ其政務ヲ分課シテ之ヲ數多ノ臣僚ニ任シテ攝理セ
シムハ其ハ全僚ノ間爭競ノ事間斷ナク黠智奸謀ヲ運ラ

レ以テ各人君寵ヲ籠絡シテ威福ヲ恣ニヒント欲ス茲ニ至リテハ君主親ラ其大権ヲ操攬セサル可ラス故ニ已ムヲ得スレテ國事ヲ舉ケテ之ヲ冢宰カサリニ托シテ萬機ヲ專決セシメ之ニ付與スルニ人主同様ノ權威ヲ以テス東洋諸邦ノ通弊大抵斯ノ如シ是專制政ニ於テハ冢宰職ヲ置クヲ以テ其大憲トスル所以ナリ

羅馬ノ某教皇未タ其位ニ選マレサル以前自ラ其器量ニアラサルヲ知リテ種々ノ難題ヲ設ケテ已ニ其選舉ニ當ラサルコトヲ希望セシカ終ニ親友ノ勸誘ニ依リテ其選ニ當リ即位ノ後ハ一切ノ機務ヲ其姪ニ委託シテ之ヲ顧ミス他日人ニ語リテ愚ナル哉我其初教皇ノ斯ク為シ

易キトハ知ラサリシナリト云ヘリ況ヤ東洋諸邦專制ノ帝王ニ於テヲ深宮ノ中ニ居リ婦孺閹官ノ手ニ生長シテ其躬行スル處一トシテ其心思ヲ弱ノ其才智ヲ削ルニアラサルハナク甚レキハ親ラ其天潢ノ高貴タルヲ曉知セサルアリ故ニ一旦衆ニ擁セラレテ實祚ヲ踐ムニ至リテハ其初ハ驚揚シテ安セサルモ數日ノ後其冢宰ヲ選ミテ萬機ヲ攝理セシムルヤハ忽チ其心逸豫シテ其初念ノ非ナリシヲ覺知シ是ヨリ以往官禁ノ中ニ遊息シテ日夜嬖倖閹嬖ヲ之レ友トシ荒淫沈湎ノ行ヲ為シ放蕩邪侈至ラサル處ナレ

各國ノ帝王タルモノ其邦域廣大ナルニ應レテ内寢ノ供

奉モ從テ豊饒ナルヲ以テ其酒色ノ事モ亦華侈ニシテ度
ナキナリ大抵治ムル所ノ人民益夥レケレハ其怠ル處ノ
政務益多ク其治ル處ノ國政益繁ナレハ之ヲ慮ルコト益
薄キニ至ルハ實ニ免レサル勢ナリ

萬法精理卷之二終

萬法精理卷之三

何 禮之重譯

政府三類ノ元氣ヲ論ス

第一回 政府ノ形質ト元氣ト相全レカラサルヲ
論ス

前卷既ニ各政府其形質ヲ殊ニスルニ就テ其法ノ不同ナ
ルコトヲ論セリ此一卷ハ其元氣ノ不同ナルニ依リテ其
法ヲ殊ニスル所以ヲ辨ス可レ

夫政府ノ形質トスル處ト元氣トスル處ノ間ニハ一ノ鴻
溝其相異ナル處乃チ萬法ノ關鍵ト為ル予ハアリテ之ヲ
此中ヨリ無數ノ果實ヲ得ント欲スルナリ
分割ス形質トハ政府ヲ構造スル處ノ規模ノ節目ヲ指シ

元氣トハ之ヲ活動セシムル處ノ氣風ヲ云フナリ
 法則ノ政府ノ元氣ニ於ルヤ其關涉スル處極ノテ親切ニ
 シテ決シテ其形質ニ於ルヨリモ疎遠ナル可ラス此一卷
 ハ其元氣ヲ反覆辨論スルヲ以テ主旨ト爲ルナリ

第二回 政府各其元氣ノ異ナルヲ論ス

合國ノ人民總負相會シ或ハ其中一部ノ族類相議シテ君
 權ヲ掌握スル之ヲ共和政ノ形質ト爲ス此推テ君主一人
 ノ手ニ歸シ而シテ之ヲ施行スルニ至リテハ一定ノ憲法
 アリテ之ヲ制束スル之ヲ立君政ノ形質ト爲ス一人ノ意
 志ニ從ヒ擅ニ政務ヲ專決スル之ヲ專制政ノ形質ト爲ス
 三體ノ政府各其元氣ヲ殊ニスル所以ハ前文ニ就キテ其

然ルヲ知ル可シ是乃チ其元氣ノ由テ生スル處ニリ今爰
 ニ之ヲ説明シ共和政就中民主政ヲ以テ其端ヲ開クナリ

第三回 民主政ノ元氣ヲ論ス

立君政ハ法律ノ力ヲ以テ之ヲ治ノ專制政ハ君主ノ暴威
 ヲ以テ之ヲ壓制シ各其政ノ全局ヲ施行維持スルニ充分
 ナリ必スシモ誠實ノ一途ヲ專ラニムルヲ要セス然レモ
 民主政ニ至リテハ更ニ一ノ活動力ノ懿德ト稱スルモノ
 アルヲ要ス

此論ハ皆史家ノ保證スル處ニ屬シテ事理物情ニ於テ甚
 タ適切恰好ナル者トス何如トナレハ立君政ニ於テハ君
 主一人ニテ常ニ萬機ノ出納ヲ司ルヲ以テ其心自ラ其身

ノ尊大ナル更ニ法憲ノ上ニ在ルコトヲ知覺ス故ニ民主
政ニ於ルカ如ク專ラ懿德ニ依頼スルヲ要ハス民主政ニ
テ為政ノ地ニ居ル者ハ其身素ヨリ人民ノ囑托ヲ守リテ
其職事ヲ盡スモノナルヲ以テ其心自ラ法憲ニ檢束セラ
ル、ヲ知リ常ニ懿德ニ頼ラサルヲ得サルナリ
若シ夫立君ノ政ニ於テ君主奸佞ノ言ヲ信用シ或ハ宴遊
ニ耽リテ政務ヲ怠ル時ハ則チ諫諍ヲ容レ邪黨ヲ黜ケ或
ハ痛ク游惰ノ性習ヲ改メ一朝ニシテ以テ其惡弊ヲ一洗
スルコト難カラサル可シ民主政ニ於テ法律ノ流行息止
スルモノハ然ラス全ク民心腐敗シ風俗澆漓ニ陥リテ爰
ニ及フモノナルカ故ニ其國必ス衰亂シテ救ノ可ラサル

ヤ明カナリ

此一世期ノ前前百年英國ノ人民其力量ノ足ラサルヲ顧ミ
スシテ民主政ヲ設立セント發憤盡力セシハ今日之ヲ回
顧スレハ一場ノ奇觀ト為サ、ルヲ得ス熟ラ其舉動ヲ察
スルニ騷亂ノ際國政ヲ秉リテ執權ノ地ニ居ル者コルン
ハ懿德ヲ有スルニアラス唯其黨ノ果敢勇斷ニ依リテ利
達成功ヲ得之ヲ恃ミテ以テ其覬覦ノ心ヲ鼓動シ朋黨ノ
勢氣互ニ起リ互ニ亡ヒ暴ヲ以テ暴ニ換ヘ隨テ政府確立
セヌ朝暮變換セリ其形勢斯ノ如キヲ以テ人民ハ數回ノ
顛覆ニ驚キ迷ヒ民主政ノ真面目果シテ何處ニ在ルヤヲ
辨究スルコト能ハス攻撃ニ從事シテ騷亂止ム時ナシ其

間幾回ノ劇戦ヲ經多少ノ慘酷ヲ嘗メ而シテ右チ已テ得
ス既ニ鼓ヲ鳴シテ其罪ヲ責メタル處ノ立君政ヲ復立シ
タリ

シルラ一曾テ羅馬ノ頽勢ヲ挽回シ以テ再ヒ昔日ノ自主
自由ニ復セント欲シタリシカレ憫ムハシ共和ノ政既ニ
衰耗シテ其德澤ノ存スルモ一綫ノ氣息アルノミナリ故
ニシーサルタイバリエース、カエス、クロデウス、子ロー
ドミシヤンノ英雄踵ヲ接シテ勃興スルアリト雖モ其國
ノ元氣ハ日々ニ減削沉淪シ之ヲ奈何トモ為ルコト歟ハ
其械枷ヲ緊束スル而已ニテ適憤發シテ為ス事ア
ラントセシモ徒ニ霸主ト戦ノチ之ニ克チシニ過キス更

ニ覇政ヲ撃テ破ルコトヲ知ラサリキ

國初ノ希臘人ハ民主政ノ下ニ立テ專ラ懿德ヲ以テ其政
府ヲ維持セリ治理ノ要ヲ知ルモノト云フ可シ李世ノ希
臘人ハ然ラス其國民唯製造貿易ニ從事シ富ヲ致シ樂ヲ
極ムルヲ專務ト為ス是他國ノ束縛ヲ受ケシ所以ナリ
民主ノ政一タヒ懿德ヲ抛却スルキハ志氣アル者ハ不軌
ノ心ヲ懷キ闔國ノ人民舉テ貪婪私欲ノ情ヲ恣ニシテ各
其私利ヲ營ミ公益ヲ謀ラス從テ人民ノ希望スル處ノ目
的一變シ昔日好ミシ處ノ者ハ今日ニ至リテ之ヲ厭忌シ
前日ハ法律ニ約束セラル、ヲ以テ自主權トナセシモ今
日ハ肆行恣ル處ナク好ミテ法律ヲ犯スヲ以テ自由トナ

シ全國ノ狀態恰モ奴隸ノ其主家ヲ出奔セシモノ、如シ
是ニ於テ法ヲ執ルコト正直ナレハ之ヲ嚴酷ト云ヒ舉動
ニ準繩アル之ヲ束縛ト稱シ事物ニ謹慎ナル之ヲ畏縮ト
シ昔日ハ節儉ヲ守リテ妄リニ利得ヲ好マサル者モ今日
ニテハ貪欲厭フコトナク昔日ハ人民私有ノ財ヲ以テ一
國ノ公富ト為セシカモ今日ハ國家ノ公財ヲ掠ノテ一家
ノ私有産ト為シ國民タル者交盜賊ノ所行ヲ為シテ公物
ヲ劫掠ス此極ニ至リテ其國カト為スモノハ他ニアラス
數名ノ豪傑主トシテ其權威ヲ專ラニシ自餘ノ人民ハ概
シテ放肆無賴ニ溺ル、ノミ
曾テ雅典人ノ其威名ヲ天下ニ輝シタル時モ其國亡其民

辱ノラレテ他國藩屬ト為リシ時モ其兵力ニ於テハ多寡
強弱ノ差アラザリシナリ且波斯ノ大軍ヲ防禦シ斯巴爾
達ト雌雄ヲ爭ヒ西々里ヲ征伐セシ時モ其人民ハ二萬ト
リキ而シテ羅馬ノ上將デノトリユスフハレリユス其民
ヲ擒シ之ヲ奴隸ト為シ其頭ヲ箕ヘテ之ヲ市場ニ販鬻
セシ時モ亦一萬ノ數ニ不足アルコトナカリシナリ其他
非立帝其國ニ号令ヲ施ントシテ城門ニ進入セシ時モ
モ國民ノ數ハ雅典人ハ戰破レタルコトアラス唯機會ヲ失
フタル而已ナリ然レモ懿德去リテ國勢衰微ヲ致スニ至
リテハ之ヲ救防スルニ術ナシ政學家デモステニスノ書
ヲ讀ミテ其然ルヲ知ル可シ其言ニ曰ク國民ノ非立帝ヲ

恐ル、所以ハ其國ノ獨立ヲ害スルカ為ソニアラヌ唯其
逸樂ヲ妨クルヲ以テナリト當時一法ヲ制定シテ若シ割
ヲ移レテ軍備ニ用ヒンコトヲ建議スル其結局ヲ見ルニ
者アラハ重罪ヲ以テ其人ヲ罰ス可シト其結局ヲ見ルニ
曾テ波斯ニ抵抗シテ百戰屈セス其城ハ數回灰燼化シテ
而シテ再興シタル雅典モテローノ一戰ニ一敗地ニ塗レ
テ永ク回復ノ機ヲ失セリ非立帝ノ大度歟ク其俘囚ヲ返
與シタレバ其民己ニ奴隸タリシヲ以テ其益アラサリキ
當日雅典ノ兵ヲ破ルコトノ容易ナルハ尚ホ昔時其德ニ
克ツノ甚ク艱難ナリシニ齊ント云フ
加耳他治滅亡ノ狀ヲ見ルニ其獨立ヲ保持セント欲スル
モ次シテ得可ラサル形勢ナリ曾テハンニバル總領官ト

為リテ大ニ勵精シテ以テ庶官有司ノ其國ノ蠹蝕タルヲ
防制セシニ依リテ國民ハ往テ之ヲ羅馬ニ訴ヘタリ加耳
他治ノ人民ハ其城堡ヲ毀リテ國民ノ權利ヲ維持シ其富
財ヲ誇眩シテ敵人ノ眼ヲ怙悅セシハル者ト云フ可シ羅
馬ハ此機ニ乘レテ先ヅ其國民中ニテ貴重ナル者三百人ヲ
取リテ質トナシ次テ其戰艦兵器ヲ沒收シ而シテ后ヲ兵
端ヲ開キ之ヲ征討セリ其國力既ニ竭ルニ臨ミテ奮激防
戰セシモツヲ以テ之ヲ國勢隆盛ナル時ニ用ヒ懿德ヲ以
テ扶助盡カシタランニハ決シテ亡國ノ禍ヲ蒙ラサリシ
ハ智者ヲ俟スシテ之ヲ判定ス可シ如耳他治ハ赤手ニテ
羅馬ヲ防キレテ三年

第四回 貴族政ノ元氣ヲ論ス

民主政ニ於テハ懿德ヲ以テ第一ノ要具ト為ス貴族政ニ於テモ亦然リ然レモ民主政ニ於ルカ如ク專ラ懿德ノミニ依頼スルヲ要セサルモノトス

貴族政ニ於テ人民ノ貴族ヲ視ルハ恰モ立君政ノ臣民ノ其君主ヲ仰クカ如ク法律在リテ之ヲ約束スルカ故ニ人民ノ懿德ヲ要スルコト民主政ニ於ルヨリモ稀薄ナリトス然リト雖モ貴族政ニ於テハ如何ニシテ其貴族ヲ約束ス可キヤ之ヲ一難事ト為ス蓋シ當路ノ人、法律ヲ執リテ全族ヲ約束制限スルハ即チ自己ノ約束制限スルモノニテ已ニ不利タルコトハ顯然タリ故ニ此政治ニ於テ懿德ノ

缺ク可ラサルハ固ヨリ其政体ノ然ラレハル處ナリ

貴族政ニハ其中自ラ力量ノ有ルアリテ民主政ニ於テハ更ニ之ヲ見サルモノトス此政治ニ於テハ貴族合全シテ一休ト為リ其特權ト其固有ノ利益トニ依リテ人民ヲ約束スルカ故ニ現立ノ法律アリテ之ヲ梗塞妨碍スルコトハ自ラ行ハルハモノナリ

貴族一休トナリ以テ人民ヲ約束シテ其權限ヲ超エサラシムルハ容易ナレモ全族相制シテ散ク規矩ニ則トルハ甚タ難事ナリトス公罪ハ之ヲ罰シ得ハニ是摠體ニ關係シ屬アリ之ヲ罰セサルハ此政治ハ法ヲ制シ法ヲ行フ者ヲシテ其法ニ拘ラサラシムルニ似タリ是其國憲ノ然

貴族ノ如ク屬類ヲ約束セント欲スルニハ唯二策アル而

己其一ハ大德ヲ施シ全一ノ理ヲ明カニシ以テ貴族ト平

民ト懸隔スル、甚タシキヲ除キ去リ之ニ依リテ一大共

和ノ政ヲ為スニ在リ其一ハ小德ヲ施シ節制謹度能ク其

當ヲ得テ全族彼此平等ニシテ其國ヲ維持スルニ在リ

是故ニ此政体ニ於テハ節制謹度ヲ以テ其精神ト為ス所

謂節制謹度トハ懿德ヨリ發スルモノニテ決シテ怠慢緩

忽ニ出ハスモノニアラス

第五回 立君政ノ元氣ハ懿德ヲ旨トヒサハコト

ヲ論ス

立君政ノ治術ハ成ル可ク懿德ニ由ルコトノクレテ以テ

大事ノ為スニ在リ之ヲ譬フルニ巧妙精緻ノ機械ヲ造ル

ニハ其技術アリテ務メテ其運動ト車輪機杼ノ寡少ナシ

ンコトヲ云ハスルカ如シ

立君政ハ愛國ノ心、真正ノ光榮ヲ希求スルノ情ト私欲ニ

克チ公利ヲ達シ且今時ニ於テハ昔日ノ美談ト為リテ吾

人ノ讚嘆スル古人ノ勇義德行ニ依頼ヒサルモ能ク其國

成立スル者ナリ

此政体ニ於テハ法憲律令アリテ以テ懿德ノ作用ヲ補助

シテ足ラサルヲ無シ故ニ國家ニ於テ強ヒテ人民ヲシテ

之ニ率由セシムルヲ要セス此政ニ在リテハ未發未覺ノ行

為ハ敢テ憂ッ可キ弊害ニ至ル事アラス
凡ソ大小ノ罪惡其本ヲ論スル時ハ多少人民ニ関涉シテ
公罪ト為ルヘシト雖モ自ラ其中ニ實ノ公罪ト私罪トノ
別アリ私罪トハ何ソヤ其最モ特別ノ私民ニ損害アルコ
ト全國ノ人民ニ於ルヨリモ甚シキモノ是レナリ
共和政治ニ於テハ否ラス私罪ヲ犯スモノ、其政体ニ害
アルハ一私民ニ於ルヨリモ更ニ著シキヲ以テ之ヲ公罪
ト認メテ可ノリ之ニ及レテ立君政治ニ於テハ公罪ト雖
モ其害ヲ為スコト國憲ニ於ルヨリモ多クハ一私民ニアル
ヲ以テ之ヲ私罪ト目ミテ可ナリ
予之ヲ古今ノ史記ニ徵レ諸家ノ成説ニ基キテ此論ヲ立

ヲ觀者惟ムコト勿レ且立君ノ政ニ於テ有徳ノ帝王ヲ出
セシコト其例往々之アリ予之ヲ知ラサルニアフス然レ
ハ立君政ノ下ニ立ツ處ノ人民ヲシテ有徳ノモノタラシ
ムルハ極ノヲ難シト爰ニ放言セサルヲ得ス茲ニ論スル
政事上ノ徳ニテ即チ心術上ノ徳ヲ公利公安上ニ施用シ
タハモノナリ決シテ道義上ノ私徳ニアラス又教用上ノ
徳ニテアラサキ五卷 試ニ古史ヲ讀ミ先哲ノ曾テ帝王ノ朝
廷ニ就テ評論セシテ涉獵ス可シ又臣僚ノ品行卑汚陋劣
ナルニ就テ各國人民ノ風俗性情ヲ考察ス可シ然レハ
予カ前ニ論セシモノハ一モ駕空ノ臆説ニアラスシテ皆悲
愁ヲ經歷シタル實蹟ナル事ヲ知ル可キナリ
名利ノ心懶惰ノ心ニ合シ鄙劣賤汚ノ情驕慢泰傲ノ情ニ

交リ勞セスレテ富ヲ得レト欲レ公直誠實ノ事ヲ憎ミ諂
諛ヲ事トシ良心ヲ虧キ約信ヲ食ミ人民タルノ義務ヲ破
リ君主ノ德行アルヲ忌憚シテ其暗愚ナルヲ喜望シ甚ク
シキハ道德ヲ刺譏シテ止マサル事總テ奸佞ノ小人得意
ノ狀態ヲ描寫スルモノニテ古今ノ史冊ニ鑒ミ宇内ノ諸
國ニ通シテ然ラサルハ殆ト稀ナリ立君政ノ弊ヤ斯ノ如
シ然ルニ今在上當路ノ人ハ皆狡猾ニシテ下民ハ忠厚質
直ヲラレコトヲ欲シ又在上ノ人ハ欺詐ノ行アリテ下民ハ
木偶人ノ如クシテ唯上ノ為ル所ニ之レ從ハシメニ欲
スルハ抑モ又難キ事ナリ
是故ニ人民中若シ偶然ニシテ二三忠厚誠實ノ者此忠厚誠實モ

政事上ニ就テ然ヲ生スル事アハ之ヲ不吉ト看做シテ
リト知ル可シ然佛國ノ遺訓ニ云シカ如ク君主タルモノ慎
リシリユ一執政ノ如キ人物ヲ登庸ス可ラス實ニ懿德ハ立君政ノ
精神ニアラサルヤ明瞭ナルハレ但全ク之ヲ棄絶スト云
フニハアラサス唯之ニノミ依頼スルヲ要セサルト云フノ
ミ

第六回 立君政ニ於テ懿德ノ缺ヲ補フハ何物ヲ
ルヤヲ論ス

前ノ一回ヲ讀ムモノ恐クハ其意ノ在ル所ヲ知ラス予ヲ
以テ妄ニ立君ノ政ヲ刺譏スルモノト疑フ可シ因テ其論
ヲ茲ニ止メテ更ニ一物アリテ以テ懿德ノ虧缺ヲ補フニ

トアルノ論セシ抑モ立君ノ政ニ於テハ名譽ト稱スルモ
ノリテ其身ヲ抛テ其地位ヲ捨テ顧ミ、此一物乃チ政
事上ノ懿德ノ缺ヲ充テ國中到ル處一トシテ發顯モサ
ル處ヲケ人民ヲ鼓舞シテ偉大ノ事業ヲ企テシム若シ能
ク之ニ法律ノ力ヲ加フル時ハ其政治ノ規模ヲ達スルニ
於テ毫モ懿德ニ讓ルヲナカル可シ
是故ニ立君政ノ能ク治術ヲ得タル者ニ於テハ之ヲ臣民
ニ為シテ純良ナルモノハ甚ク多シト雖モ善良ノ私人並
ニ善良ノ私人ト謂フハ政ト為ス可キモノハ甚ク少シ何如
トナシハ善人ヲランニハ專ラ其心術ニ在リテ私利ノ為
ニ國ヲ愛スルヨリモ公利ノ為ニ國ヲ愛スハキヲ以

テナリ

第七回 立君政ノ元氣ヲ論ス

立君政ニ於テハ既ニ論セシ如ク都テ階級閥閥ヲ崇尚シ
而シテ名譽ノ物タル能ク衆人ニ卓絶シタル事ヲ表シ高
貴ノ爵位ヲ顯スモノナルニ依リ名譽ヲ以テ此政ノ元氣
ト為ス固ヨリ理ノ當然ニ出ルモノトス
大ヲ貪リ名ヲ求ムル事ハ共和ノ政ニ害アリ然レモ立君
政ニ於テハ此情アルカ爲ニ政府ノ活動力ヲ振作ス又絶
エス之ヲ抑制スルモノ有ルヲ以テ其害ヲ避ケテ其利ヲ
取リ大ニ治功ヲ裨益スルモノナリ
此政ハ其形狀猶ホ天体ノ全系ニ遠心求心ノ二力ヲ具シ

一ハ以テ其系ヲ脱シテ散飛セント欲シ一ハ之ニ歸拱シテ離レス此二カ能ク平均抑制シテ其運行ヲ誤ラサルカ如シ立君國ノ名譽乃チ其物ニシテ國民ノ政ニ預ル者ノ總員ヲ感動シ其作用ニ依リテ以テ民心ヲ聯結シ其情彼此皆齊キカ故ニ會革スル處即チ公利公福ヲ進ムルモノト爲ル而シテ其源頭ニ溯レハ各人一己ノ利益ヲ謀リテ之ヲ暢達セント欲スルニ出ルニ過キス
理學ノ眼ヲ以テ之ヲ視レハ此政府ノ全体ヲ感動スルモノハ偽譽浮名ニ屬スルニ過キス然レバ此偽譽浮名ノ公衆ニ必要ナルヲハ猶ホ真名實譽ノ一私人ノ品行ニ缺ク可ラサルモノト異ナルコトナシ

人ヲシテ發シ難キ氣力ヲ發セシノ堪ハ難キ艱苦ニ堪ハシノ以テ難爲ノ事業ヲ爲シ其功效ヲ得シニハ名譽令聞ニ仗リテ之ヲ鼓舞スルハ別ニ報賞ヲ與フムヲ要セス之ヲ此政ノ元氣ト謂ハサルマケンヤ

第八回 名譽ハ專制ノ元氣ニアラサルヲ論ス

專制政ニ於テハ人民都テ全等ノ地ヲ占メテ彼我優劣ノ區別ナシ又人民齊ク君主ノ奴隸ニ屬シテ人ニ勝テ衆ニ秀ルノ意思アルコトナシ故ニ名譽ハ決シテ此政ノ元氣ニアラサルナリ
殊ニ名譽ノ性タル自ラ其法則準規アリテ他ニ屈服スル事ヲ知ラス且頗ル其人ノ氣性ニ從ツテ他人ニ委頼セサ

ル者ナリ故ニ若シ其國一定ノ憲法アリテ以テ之ヲ治ル
 處ニアラサレハ名譽ハ成存スルコト能ハサルナリ
 名譽ノ極マル處ハ性命ヲ捨テ、惜マス然ルニ暴君ノ恃
 ミテ權威トスル處ハ能ク之ヲ與奪スルニ在リ若シ名譽
 ノ致ス處之ヲ奪フモ哀マス與フルモ喜ハサル時ハ暴君
 モ其政ヲ為スコト能ハス是暴君ノ名譽ニ堪ヘ難キ處ナ
 リ又名譽ハ一定ノ法則ヲ有シテ絶エス其人ノ氣性ニ率
 由ス然ルニ暴君ハ其法則ニ戾リテ其政ヲ爲シ一己ノ氣
 性ヲ以テ他人ノ氣性ヲ破碎ス名譽ハ一日モ斯ル政治ノ
 下ニ成立ス可ラス是名譽ノ暴君ニ堪サル處ナリ
 是故ニ專制ノ政府ニ於テハ更ニ名譽ノ何物タルヲ知ル

者ナシ之ヲ鮮明スルニ適當ノ言語ヲ得サルニ至ルコト
 屢アリ然レ氏立君ノ政ニ在リテハ至要ノ元氣ト爲リテ
 之ヲ以テ國家ノ活動ヲ生シ法律ヲ整理シ加フルニ能ク
 懿德ヲモ培養スルモノナリ

第九回 專制政ノ元氣ヲ論ス

共和政ハ懿德ヲ缺キテ其治ヲ為シ難シ立君政ハ名譽ニ
 依ラサルヲ得ス專制政ハ之ニ換フルニ畏懼ヲ以テス此
 政体ニ於テハ懿德ハ不用ノ物ニ属シ名譽ハ甚危険ノ具
 ト爲ル

此政体ニ於テハ君主無限ノ權威ヲ舉ケテ之ヲ其寵遇ノ
 大臣ニ委任ス若シ他ニ有爲ノ人アリテ自ラ聲價ヲ得ル

カ如キコトアレハ忽チ顛覆ノ亂ヲ起スノ患アリ是故ニ
常ニ畏懼ノ心ヲ懷カンノ以テ其有為ノ氣力ヲ壓抑シ大
事ヲ圖謀スル性情ヲ撲滅シテ其形迹ヲ發顯セサレム
可シ

立憲ノ政府ハ法律ト其固有ノカトヲ以テ自ラ維持スル
ニ足ルカ故ニ時トシテハ其活動ノ勢ヲ緩漫ナラシムル
モ敢テ其害ヲ見ス然レド專政ノ君主其大權ヲ操持スル
ニ方リテ若シ一瞬間ニテモ之ヲ止息スル事アリ或ハ其
全權ヲ委任シテ機務ヲ攝理セシムル大臣ヲ壓服スル欲
ハサルコトアラハ此政府ノ元氣トス可キ畏懼ノ心忽チ
消失スハカ故ニ國勢上崩瓦解シテ人民ハ其保護主ヲ喪

フニ至ルトリ

カデ井ス秘土耳其ノ詞ニ大君秘土耳ハ誓詞盟約ヲ以テ

自ラ其威權ヲ制限スルヲ雖モ敢テ之ヲ履行スルノ義
務ナシト云ヒシハ此情實ヲ指シ、モノナル可シ

此國ニ於テハ法律ヲ以テ庶民ヲ裁判レ而ノ君主ノ氣性
ニ任セテ權貴ヲ壓制シ卑賤ノモノノ性命ハ之ヲ保護シ
テ安全ヲシメ大官タル者ノ頭腦ハ常ニ危殆ノ憂ヲ免
レサルモノト爲スヲ要ス其政ノ慘酷ナル誰カ恐懼セリ
ハモノアラレヤ近時波斯政府ノ顛覆ヲ見ルニミリウヤ
スノ子マホメット起リテ國憲ヲ蹴破シ君主ヲ廢棄セリ
其然ル所以ノモノハ君主仁柔ニシテ殺戮ノ事ヲ好マサ

ルニ依ルト云フ

ドミシヤン 羅馬ノドミシヤンハ埃及ノ准王ト為リテ武
政ノ一種ハ唯殘酷暴厲ナリシニ依リテ地方ノ司牧皆恐
懼シテ之カ為メニ其治世中ハ人民稍生色アリ其事史冊
ニ就テ之ヲ徵ス可シ之ニ由テ考フレハ專制政ハ恰モ洪
水ノ堤ヲ決スルカ如ク一方ノ田地ハ為メニ砂磧ト變シ
テ寸草モ遺リ、レハ一方ハ毫モ水害ニ罹ラス永莖依然
之ヲ望ミテ蒼々タルニ齊シ

第十回 政体ノ寛暴ニ依リテ順從ノ義ニ異全ア

ルヲ論ス

專制ノ諸國ニ於テハ人民タル者必ス唯々トシテ其命ニ

作民精府

之レ順從センコトヲ要ス是其政体ノ本性然ラシムルモ

ノニテ君主一タヒ其意ヲ生スルハ其是非ヲ問ハス之
ヲ看テ至善至美ノモノト為シ之ヲ奉行セサルヲ得ス

此政ニ於テハ之ヲ節制約束スルモノアラス又折衷制限、
抵當、商量、諫諍ノ如キ事アルヲ見ス人民ハ唯君主無限ノ
恣意ニ順服ス可キ為メニ生レテ君主ト雖モ必竟人類ニ
過サルヲ知ラサルモノ、如シ

斯ノ如キ邦土ニ在リテハ人民其不幸薄福ヲ認メテ以テ
之ヲ唯當時命運ノ凶愆ナルニ委スルノミニテ更ニ將來
ノ事ヲ慮リテ其畏懼ノ心ヲ陳述スル事ヲ許サス此國ノ
人民ノ命運ハ猶ホ獸畜ノ天性ヲ具シ驅役ニ馴從シ甘シ

テ鞭笞ヲ受ルモノニ異ナラス

人民ノ狀態然ルヲ以テ天倫ノ至情ヲ盡シテ以テ子其父
ヲ敬スルコト能ハス又其妻ヲ憐ムコト能ハス父其子ヲ
愛スルコト能ハス又名譽ノ法則ヲ論スルコト能ハス疾
病ノ其身ヲ傷マシムルヲ述フルヲ能ハス唯君主ノ命之
從フヲ以テ満足セサル可ラス

波斯ニ於テ若シ國王人ヲ刑スルコトアレハ其後其人ノ
姓名ヲ談スルヲ禁シ其人ノ爲ノニ慈悲ヲ請フヲ許サス
其命令スル處假令沈醉ノ中又ハ發狂ノ上ニ出ルト雖モ
之ヲ奉行セサル可ラス否ラサレハ國王ノ言ハ前後矛盾
スルモノニテ自ラ制定スル處ノ法律ヲ自ラ破滅スルニ

當レハナリ○是古ヨリ今日ニ至ルマテ此國ニ於テ法ヲ
行フノ趣意ニシテ其勢然ラサルヲ得ス爰ニ一例ヲ舉グ
テ之ヲ証ス即チアハシユールス國王曾テ猶太ノ教徒ヲ鑒

殺ス可キ命令ヲ下シ後其舉ノ不仁ナルヲ悔悟セリ然レ
モ既發ノ命令ヲ消却スルコト能ハス故ニ教徒ニ兵器ヲ
帶ヒテ其身ヲ扞禦スル事ヲ准許セリ

然リト雖モ絶エテ君主ノ志意ニ逆フ可キ一物ナキニア
ラス曰ク何ソヤ教法是レナリ專制政ノ下ニ在リテハ君
主命アレハ子以テ其父ヲ棄テ得可キノミナラス之ヲ弑
シテ可ナリ其勢ノ猛ナル斯ノ如シ然レモ君命ヲ以テ其
民ニ強ヒテ酒ヲ飲マシムルコト能ハス按飲酒ハ回教
所禁ニ屬ス必

竟教法ハ更ニ人法ニ勝ルコト一層ニシテ其人民ヲ束縛
スル而已ナラス併セテ君主ヲモ共ニ束制スルヲ以テナ
リ但シ性法第一卷第四
四ニ出ツニ至リテハ之ヲ顧ミルコトナシ
蓋シ此政体ニテハ更ニ君主ヲ以テ人類ト看做サ、レハ
ナリ

立君ノ政治ニ於テハ名譽ナル者アリテ君權ヲ制限スル
處、一機關ト為リ君民ヲ併セテ之ヲ統御ス其勢恰モ別
ニ一君主アルニ異ラス此政ニ於テハ教法ニ附會シテ君
主ヲ崇奉スルヲナシ便嬖ノ小臣ト雖モ之ヲ以テ愚
ノ笑フ可キヲ知ル然レモ始終名譽ノ法ヲ援引シ之ヲ用ヒ
テ以テ臣民ヲ束制シテ順從ヲラサルヲ得サラシム又名譽

ノ性ナル時トシテ變更イキ能ハス其變更ニ從ツテ臣民
順從ノ方向ヲ示サ、ルハ無シ

上文ノ二政ニ寛暴ノ別アルニ依リテ其民ノ順從ニ又不
全アリト雖モ之ヲ順從セシムル處ノ權威ニ至リテハ全
ク全シカラサルヲ得ス故ニ假令其政權衡ヲ失シテ寛政
ニ變ニ或ハ暴政ヲ致スコトアルモ順從ノ一事ハ依然ト
シテ變化セサレナリ之ヲ要スルニ其判然タル全局ノ區
別ヲ為ス處ノモノハ寛政ニ於テハ君主タル者敎訓ノ力
ヲ藉リ宰輔タル者ハ頗ル知識器量アリテ暴政ノ君相ヨ
リハ機務ニ鍊達スルニ在ルノミ

第十一回 結論

三政体ノ元氣其趣ヲ殊ニスル事斯ノ如シ但ミ各個共和
ノ政ヲ為ス者ハ皆現ニ懿徳ヲ有スルト云フニ非ス然レ
モ其元氣トスル處必ス懿徳ヲ基本トセサル可ラサルヲ
云フナリ又立君政ハ現ニ名譽ヲ尚ヒ專制政ハ現ニ畏懼
ヲ尚フト云フニハテラサレバ之ヲ以テ其元氣ト定メサ
シハ決シテ其政府ノ真面目ヲ得ルコト難ハサルト云フ
ニ在リ

萬法精理卷之三 終

明治八年十一月廿八日
發行所 東京富士見町四丁目十一番地

明治八年十一月廿八日 版權免許

繙譯並出版人 何 禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

島村利助

芝太神宮前三島町

山中市兵衛

日本橋通三丁目

丸家善七

南傳馬町二丁目

穴山篤太郎

發兌 書林